

聖徒の道 8 1984





本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
マリオン・G・ロムニー
ゴードン・B・ヒンクレー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
ハワード・W・ハンター
トマス・S・モンソン
ボイド・K・バックー
マービン・J・アシェトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト
ニール・A・マックスウェル
ラッセル・M・ネルソン
ダリン・H・オークス

顧問

M・ラッセル・バラード
ローレン・C・ダン
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー

編集長

M・ラッセル・バラード

国際機関誌

編集主幹：

ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：

デビッド・ミッチェル

子供の頁編集：

ボニー・ソーンダーズ

レイアウト・デザイン：

マイケル・カワサキ

も く じ

「このうちで最も大いなるものは、愛である」……ゴードン・B・ヒンクレー……	1
使徒が語るキリストの証……	7
質疑応答／「岩」という言葉の象徴的な意味……ロバート・J・マッシュウズ……	12
アダムまでの系図について……	14
主は我が心を変えたもう……	16
分類にとらわれず一人独身の生き方……ジャン・アンダーウッド……	20
奉仕がもたらしてくれるもの(中央扶助協会会長会との対談から)……	24
不都合なときに多い本当の奉仕……	29
15歳：祝福の年……	34
日記による私の改宗……	37
我が家のホームティーチャー……	40
ジェドと川……	42
お子さまクッキング……	49
もはんにしましょう……	50
おもちゃばこ……	52
チャーチニュース／ローカルページ……	54

表紙：救い主と金持ちの青年(ハインリッヒ・ホフマン画)

1984年8月号 聖徒の道 第28巻第8号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 明文社

定 価 年間子約／海外子約2,200円(送料共)

半年子約1,100円(送料共)

1部180円, 大会号350円

International Magazine PBMA0482JA Printed in Tokyo, Japan.

©1984 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道子約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0-41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。注:お届け先の変更がありましたら、早急に渋谷ブックセンターにご連絡下さい。●「聖徒の道」のご注文・お支払いなどの連絡先……〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部渋谷ブックセンター/☎03-464-1617(代)

「このうちで最も
大いなるものは、
愛である」



第二副管長 ゴードン・B・ヒンクレー

私 はだれもが心から切に求め必要としているもの、そしてそれがなければこの世は寂しい廃墟となってしまうもの、すなわち「愛」について話したいと思います。

愛はまさしく命の源です。この愛から虹が生まれ、嵐の日の大空に美しいアーチを描くのです。愛は小さな子供たちが泣いて求める安心感であり、若者たちの心にある願望です。また結婚生活を強める絆であり、家庭内に不和を巻き起こさないようにするための潤滑油です。さらに晩年に至っては、愛は安らぎであり、死を越えて輝く希望の光です。このような愛を、家族や友人、教会員、隣人とのつながりの中で感じとれる人は、何と恵まれた人でしょう。

私も、信仰と同様に愛は神の賜であると信じていますし、「愛は強いられるものでは

ない」(パール・バック「宝の箱」p.165)と思っています。

若いうちは、愛は強いられたり、都合に合わせて容易に生み出されたりするものであるという浅はかな考えを持ってしまうことがよくあります。数年前、私は新聞で次のような記事を読みました。「我々が若いときに陥りやすい大きな過ちに、人を多様な性質の寄せ集めという見方をしてしまうことがある。そして借方^{かりかた}や貸方^{かしかた}を記入する帳簿係のように、我々はその人の良い性質、悪い性質を記帳していくのである。そして良い方が多ければ結婚に踏み切る。……世の中には結婚を有利な投資としか考えなかったために不幸になっている男性、女性が大勢いる。愛は投資ではなく冒険である。そして今度は、結婚が有利な投資のように何の不足もない単調なものであることがわ

日々のあわただしい自己中心的な生活の中で、主の勧告に従うことこそ、私たちに与えられた最大のチャレンジではないでしょうか。

かると、それに満足しない相手はたちまち心をほかへ向けてしまうのである……何も知らない人々は、ふたりがお互いをどう思っているのかも知らず、決まってこのように言う。「いったい彼(彼女)は彼女(彼)のどこがいいのだろう」と。そのだれにもわからないところが、実は人知れぬふたりの愛の真髄なのである。」(シドニー・J・ハリス「デゼレト・ニュース」)

私は、高校、大学時代のふたりの友人のことを思い出します。ひとりとは田舎から出てきた少年で、お金もなくこれといった才能もない飾り気のない人でした。農家で育った彼に人を引きつけるものがあるとすれば、働き者ということぐらいでした。昼食はいつも茶色の紙袋にサンドイッチを入れて持ってきていました。また彼は、学校の床みがきをしては学資をかせいでいました。外見はぱっとしない素朴な人でしたが、顔にはいつも笑みを絶やさず、すばらしい個性を持っていました。もうひとは、恵まれた家庭で育った都会っ子といった感じの女性でした。彼女はコンテストで優勝できるほどの美人ではありませんでしたが、とても慎みのある誠実な、そして礼儀も服装も良い印象を与える人でした。

このふたりにすばらしいことが起こりました。ふたりは恋をしたのです。彼女にはもっと前途有望な男性がいるはずとささやく人々がいたり、彼にはもっとお似合いの女の子がいるはずだといった陰口が聞かれました。しかしふたりは学校を終えるまで、

共に笑い、踊り、学び続けたのです。そして、どう生計を立てていくかの周囲の心配をよそに、ふたりは結婚しました。彼は専門学校でも努力を続け、クラスでも上位の成績を修めるようになりました。彼女はお金をため、働き、祈りました。そして彼を励まし、支え続けました。どんなにつらいときでも、彼女は静かにこう言いました。「なんとかやれるわ。」彼女の信頼に支えられながら、彼は大変な時期を乗り越えてきました。やがて子供が生まれました。ふたりは子供たちを愛をもって育てました。そしてお互いに対する愛と誠実さから生まれる安心感を子供たちに与え続けてきました。あれからもう何年もたちました。今では子供たちもすっかり成長しています。彼らにとって、教会にとって、また彼らの住む社会にとって、その子供たちは永遠の誉れと言えるでしょう。

私は彼らと同じ飛行機に乗り合わせたときのことをよく覚えています。ちょうど私が教会の用事を終えて帰る途中でした。薄暗い客室の通路を歩いていくと、白髪の頭を夫の肩にそっとのせてまどろんでいる女性があったのです。彼女の手はやさしく夫の手を包んでいました。彼の方が目をさまして私に気づいたようでした。やがて彼女も目をさまし、私たちは久しぶりに話をすることができました。ふたりは学会で論文を発表しての帰りでした。彼はあまり話さませんでした。彼女の方が夫の受けた榮譽について誇らしげに話してくれました。



その彼女の顔は、写真にでも撮りたいほどでした。45年前には、周囲の何も知らない人々が、お互いのどこがいいのだろうとふたりのことをあれこれさやいていたのです。私は自分の座席に戻りながら、そのことを考えていました。当時の友人たちは、彼らを田舎育ちの少年、鼻にそばかすのある笑顔のかわいい少女という見方しかしていませんでした。しかしふたりは、お互いの中に愛と誠実さを見だし、将来に安らぎと信仰を託していたのです。

天父によって植えられた聖なるものがついに花を咲かせたのです。ふたりは愛の花を咲かせるにふさわしい学生時代を送ってきました。そして彼らは信仰を持って清く、また自分やお互いに対し感謝と尊敬の気持ち忘れずに生活してきました。仕事や経済的な面で苦しかったときにも、ふたりはお互いの中に、この世の大きな支えを見いだしてきました。そして熟年となった今、

彼らは共に安らぎと静かな満足感を味わっています。そして何よりもこのふたりには、昔主の宮居で交わした神権の誓約とそこで与えられた約束を通して、共に永遠に生活できることが保証されているのです。

愛の賜はほかにもすばらしい言葉で表現されています。

「そして彼らの中のひとりの律法学者が、イエスをためそうとして質問した、『先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。』イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』これら二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。』（マタイ22：35-40）

では、私たちの隣り人とはだれでしょうか。その答えを得るには、あの心打つ良き

世の中がもっと良くなるためには、愛によって
人々の心が変わっていかなければなりません。

サマリア人（ルカ10：30-36参照）のたとえ話か、裁きの日に関する主の言葉を読まなければなりません。その日、「王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』」（マタイ25：34-40）

日々のあわただしい自己中心的な生活の中で、主のこの勧告に従うことこそ、私たちに与えられた最大のチャレンジではないでしょうか。私は数年前、田舎の学校に赴任してきたある若い女性教師の話を読んだことがあります。彼女のクラスに、以前から勉強についてこれず、今度も落第しかけていた女の子がいました。その子は字が読めなかったのです。彼女の家は大変貧しく、

大きな町の病院に行き、どこが悪いのか、また治るものなのか調べてもらうことすらできませんでした。学力に問題があるのは、その子の視力が弱いためではないかと思ったその若い教師は、自費でその子に視力検査を受けさせることにしたのです。その結果、視力はメガネで矯正できることがわかりました。間もなく、その子の前には新しい世界が開けました。生まれて初めて、目の前の文字をはっきりと見ることができたのです。田舎教師としての彼女の給料はわずかなものでした。しかし彼女は、そのわずかな給料の中から投資をして落第しかけていたその子の生活をすっかり変えたのです。またそうすることによって、彼女は自分自身の生活の中に新しい世界を見出したのです。

帰還宣教師たちは皆、自己を捨てて人々のために働いたことやそれが生涯最も報い多い経験となったことを人々に語る事ができると思います。神や人々のために熱心に働いている教会員はもちろんのこと、自分の時間や財産を惜しまず捧げ、その深い愛情と犠牲のゆえにお互いや子供たちに対して限りない思いやりを注いできた両親や伴侶たちも、同じような経験をあげることができるはずで

愛は、人間同士の争いをなくし、恨みなどで損なわれた人間関係を回復することのできる唯一の力です。この永遠の真理を、うるわしい教えとして与えてくださったのは、私たちの完璧な模範者、愛の教師であ



られる神の御子です。御子の地上への降臨は、御父の愛の表われでした。

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。」
(ヨハネ3：16-17)

救い主は、それらの犠牲や愛について、ご自分の犠牲を予言するようにこう宣言しておられます。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」(ヨハネ15：13)

救い主は、弟子である私たちすべてに、偉大な戒めをお与えになりました。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネ13：34)

世の中がもっと良くなるためには、愛によって人々の心が変わっていかねばなりません。それは、私たちが無私の心で神を愛し人々を愛するときに、また心をつくし、精神をつくし、思いをつくしてそうするときに起こるのです。

近代の啓示の中で、主は次のように宣言しておられます。「^{しか}而して、もし汝ら誠心誠意わが光栄を^{あらわ}顕さんとすれば、汝らの全身光明に充たされて汝らの中に暗黒なく……。」(教義と聖約88：67) 私たちが愛と感謝の気持ちで神に目を向け、誠心誠意神に仕えるなら、罪や利己心、プライドといった暗黒は私たちの中から消えていきます。そして代わりに、御父や私たちの救い主、贖い主である愛する御子への大きな愛が宿るのです。さらに自分のことは二の次にして、もっと人々に手を差しのべるといった、より豊かな奉仕の心が育まれるに違いありません。

このような愛こそ、イエス・キリストの福音の真髄と言えます。神に対する愛、隣人に対する愛がなければ、福音を人生の手本として人々に勧めることはできません。

使徒パウロは、次のように言っています。「たとえわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘^{かね}や騒^{さわ}がしい鏡鉢^{じやうぱち}と同じである。たとえまた、わたしに預言をす

る力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい……愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるであろう。」(I コリント13：1-2, 8)

主はこのように教えられました。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。」(ルカ9：24) 奇跡とも言えるこのようなすばらしい状態は、私たちが愛をもって人々に奉仕の手を差しのべるときに私たち自身の生活の中で起こり得ることなのです。

努力次第で、私たちは皆そのような愛の本質を心の奥深く植えつけることができます。そしてその偉大な力は私たちの生活をあらゆる面で潤してくれるでしょう。私たちがその愛の力に触れるとき、ヨハネの記した「神は愛である。愛のうちにいる者は、神におり……」(Iヨハネ4：16)という偉大な真理が理解できるようになるのです。

ホームティーチャーへの提案

担当家族との話し合いの中で、以下の点を強調するとよいでしょう。

1. 愛は子供たちにとって安心感であり、若者たちの心にある願望である。また結婚生活を強める絆であり、家庭内に不和を巻き起こさないための潤滑油でもある。さらに晩年に至っては、愛は安らぎであり、死を越えて輝く希望の光である。

2. 愛は、人間同士の争いをなくし、恨みなどで損なわれた人間関係を回復することのできる唯一の力である。それは、私たちが無私の心で神を愛し人々を愛するときに、また心をつくし、精神をつくし、思いをつくしてそうするとき起こるものである。
3. 私たちが愛と感謝の気持ちで神に目を向け、誠心誠意神に仕えるなら、罪や利己心、プライドといった暗黒は私たちの中から消えていく。そして代わりに、御父や私たちの救い主、贖い主である愛する御子への大きな愛が宿るようになる。さらに、自分のことは二の次にしてもっと人々に手を差しのべるといった、より豊かな奉仕の心が育まれる。
4. 神の御子は、唯一の愛の完璧な模範者、教師である。御子の地上への降臨は、御父の愛の表われであった。愛は、イエス・キリストの福音の真髄である。

話し合いを進めるために

1. 愛の重要性に関するあなた個人の気持ちや経験を述べる。家族の人々にも気持ちを述べてもらう。
2. このメッセージの中に、家族に読んでもらったり、話し合ったりするとよい聖句や言葉はないだろうか。
3. 訪問する前に、家長と話し合っておく必要はないだろうか。定員会指導者や監督から家長にあてられたメッセージはないだろうか。

使徒が語るキリストの証

十二使徒定員会会員
ハワード・W・ハンター

主はこの世でみ業を行なわれた間に、招きでもありチャレンジでもある召しをいく度となく与えておられます。ペテロとその兄弟のアンデレには、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」(マタイ4:19)と言われました。永遠の生命を得るためになすべきことを問うた金持ちの青年には、「帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。……そして、わたしに従ってきなさい」(マタイ19:21)と答えられました。また、私たち一人一人に対して、イエスは「もしわたしに仕えようとする人があれば、その人はわたしに従って来るがよい」(ヨハネ12:26)と言っておられます。

大勢の人がすでにキリストに従うことを選びました。私たちは、もっと多くの人があるような選択をするようにいつも祈っています。しかし、主に従う少数の特定の人たちに対して、召しはもっと具体的です。ルカは、イエスが「夜を徹して神に祈られた」のち、「弟子たちを呼び寄せ、その中から12人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった」(ルカ6:12、13)と記録

しています。

この選ばれた十二使徒たちにとって、キリストに従うという召しは、すべてを捨て、み業に働く主のお供をすることでした。彼らの召しは特別な召しでした。十二使徒は毎日、神の御子と共に歩き、共に語ったのです。彼らは主を身近に知り、感受性豊かなへりくだった心でキリストの言葉を味わいました。使徒たちはイエスを愛し、イエスは彼らを「友」と呼ばれました。(ヨハネ15:14-15参照)

この十二使徒たちは、主のご計画に重要な役目を務めました。彼らは救い主の神性と、その字句通りの復活を証する特別な証人となったのです。彼らは、主がみ業に働いておられた間ばかりか、復活されてからも主と語り合いました。復活された贖い主が二階の部屋にいた弟子たちに姿を現わされると、弟子たちは主の手足に触れ、主が単なる霊ではなく骨肉を持つ復活されたお方であることを知りました。(ルカ24:38-39参照)

使徒たちは主の神性と復活を、あらゆる説明や論議を越えた確かさで知りました。

体験から生じ、聖霊によって確認されたこの知識を得て、彼らは「エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となる」(使徒1：8)ように命じられたのです。現に「使徒」という言葉は「つかわされた者」という意味です。

使徒は神から選ばれ、復活の証人となるよう聖任され(使徒1：22参照)、その結果、世に出て行って贖罪と復活を大胆に力強く証しました。彼らは、贖罪の使命にかかわる最も重要な出来事に居合わせて、その出来事をすべての民に証するよう命じられました。すべての民がキリストを信じ、罪の赦しを受ける用意ができるように、そのとき聖霊が彼らの言葉を確認しました。パウロはエペソの聖徒たちに、キリストに関する知識は、「御霊によって彼の聖なる使徒たちと預言者たちとに啓示されている」(エペソ3：5)と語りました。

使徒にはキリストの証人という特別な召しがありますから、神の家族が「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」(エペソ2：20)ということがわかります。パウロはまた、キリストが使徒や預言者をつかわされたのは、「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」(エペソ4：12-13)と教えました。このように、使徒たちは福音を宣言しただけでなく、教会の先立って聖徒たちの間に一致と信仰を確立させたのでした。

私たちの時代に、主は再び使徒を召され

ました。この使徒たちは、全世界に対するキリストの特別な証人として聖任されています。彼らはキリストの實在と贖罪の真実を、みたまによって確かに知っています。

私たちは、「神に召されイエス・キリストの使徒の聖職に按手任命」(教義と聖約20：2)された証し人ジョセフ・スミスに、とこしえに感謝しています。ジョセフ・スミスは使徒の召しを全うして、力強くこう証言しました。「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。」(教義と聖約76：22-23)

体験とみたまから生まれたこの予言者の証は世界中に宣べ伝えられ、聖霊がこの証の真実なことを、喜んでそれを受け入れるいく百万の人の心に結び固めました。霊的な事柄を証明する方法は、私たちの時代に再び示されました。使徒職の召しはジョセフ・スミスに回復されて以後、連綿として共にあります。

私は聖任された使徒、キリストの特別な証人として、イエス・キリストが実際に神の御子であられることを謹んで証いたします。キリストは、旧約聖書の予言者たちが待ち望んだメシヤです。アブラハム、イサク、ヤコブの子孫が、何世紀にもわたって規定通りの礼拝を通じて来臨を祈り続けたイスラエルの望みです。

イエスは、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けて、御父のみ旨に従われた神の愛する御子です。イエスは荒野で悪魔に試みられながら、誘惑に屈しませんでした。救いを得させる神の力である福音を宣べ、



バプテスマのヨハネの手からアロン神権を受けるジョセフ・スミスの像

いたる所すべての人が悔い改めてバプテスマを受けるようにと命じられました。イエスは権威を持つ者として語り、罪を赦し、足なえや目しい、耳しいを癒すことによってその力を示されました。水をぶどう酒に変え、ガリラヤ湖の荒波を鎮め、地上を歩むかのようにその水の上を歩かれました。命をねらうよこしまな支配者たちを狼狽させ、悩む心に平安を与えられました。

そしてついに、ゲツセマネの園で苦しみ、十字架上で亡くなられて、世に生まれるすべての人のため身代わりとして罪のない命を捧げられたのです。イエスはそれから3日目にまさに死からよみがえり、復活の初穂となって死に打ち勝たれました。

復活された主は、証人として神から選ばれた人間に時折姿を現わし、あるいは聖霊

を通じてみこころを啓示しながら、救いのみ業を続けておられます。

私が証を述べるのは、聖霊の力によつてです。私は自分の目で見、耳で聞いたようにキリストの存在を知っています。また、聖霊が信仰の耳をもって聞くすべての人の心に、私の証の真実なことを証すると知っています。

主がこの世に住まわれて以来2千年近くの間、無数の人々が親切、寛容、慈悲、慈愛などの主の属性をたたえてきました。古代の哲学者は主の教えを、「あなたの御言葉のおどろくべき深さよ。表面だけを見れば、わたしたちのような幼児にむかっても、手招きしているようであるが、しかしわたしの神よ、なんとおどろくべき深さであろう。またなんとおどろくべき深さであろう。そ

れを^{のぞ}覗くことは恐ろしいことであり、尊敬より起る恐怖と愛より起る^{せんりつ}戦慄とを伴う。」(岩波文庫聖アウグスティヌス「告白」〔下〕第12巻第14章17)と評しています。

主の教えや徳性は人類にとって、はかり知れない価値を持っていますが、しかしそれは、崇拜、礼拝の本当の対象であるべき罪の贖いや死よりの復活の副産物として見なければなりません。残念なことに、キリストの徳性や倫理をあげめながら、その贖い主の神性を否定する人々がたくさんいるのです。

私に従ってきなさいという主の招きは、特別な証人として聖任された人よりも大勢に向けられています。召しは一人一人に直接下り、心に迫ります。私たちは対立する意見の中間にいつまでもいられるものではありません。だれでもいつかは、この重大な質問に直面します。「あなたがたはわたしをだれと言うか。」(マタイ16:15) 私たち一人一人の救いは、この質問にどう答え、その答えをどう実行するかにかかっています。啓示によるペテロの答えは、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」(マタイ16:16)というものでした。数多くの証人がこれと同じ力によって、まったく同じ返答をすることができ、私もその証人たちと共にへりくだり、感謝してそう答えます。しかし私たちはそれぞれに、自分でその返答をしなければなりません。もし今でなければ、あとで。なぜならば、最後の日にはすべてのひざがかがみ、すべての舌がイエスはキリストであると告白するからです。機会を永遠に失う前に、正しく答え、そのように生きることが私たちに課せられた課題です。

では、証する通り、イエスが確かにキリ

ストであるとするならば、私たちは何をしなければならぬのでしょうか。

キリストの至高の犠牲は、私に従ってきなさいという招きを私たちが受け入れて初めて、生活に実を結びます。この召しは見当違いでも非現実的でも不可能でもありません。人に従うということは、近くでその人を観察し、その人の言うことを聞くこと、その権威を認め、指導者として受け入れ、言いつけを守ること、その考えを支持し、唱道すること、そして彼を自分の模範にすることです。私たちはだれでもこのチャレンジを受けることができます。ペテロは、「キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである」(Iペテロ2:21)と言いました。キリストの教えにそわない教えが偽りであるように、キリストの模範にそわない生活は誤りであって、可能性の極をきわめることはできないでしょう。まだ福音を受け入れていない人々にとっては、キリストに従うとは、キリストについて学び、その福音を守ることです。イエスご自身が、福音をこう説明しておられます。

「さて、世界の隅々に至る者たちよ。汝らは聖霊を受けて聖められ、また終りの日にわが前に罪なしとせられんために今悔い改め、われに来てわが名によりてバプテスマを受けよ。これ汝らに与うる命令なり。

われまことに、まことに汝らに告ぐ、以上はわが福音なり。わが教会に於てなすべきことは、汝らすでによく知れり。すなわち、汝らが見たるわが行いを汝らもせよ。これらのことは汝らも行うべきことなればなり。」(IIIニーフアイ27:20-21)

それぞれが、聖典や主に選ばれた僕たちの教えを通じて、キリストのみ言葉を受け



「帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。……
そして、わたしに従ってきなさい。」(マタイ19:21)

なければなりません。それからみ言葉に対する信仰を行使して悔い改めてバプテスマを受け、それにより生活に聖霊の清めの力をいただく用意をするのです。

兄弟姉妹の皆さん、受け入れるすべての人のために、神の愛が地上に來ました。キリストが惜しげなくくださる賜を受け、そしてその賜を人々に分かちつことは、私たちの神聖な義務、責任であるばかりか、機会であり特権でもあるのです。

「神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、

御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。」(Ⅰヨハネ4:9-11)

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16) 私はこのことをキリストのみ名によって証いたします。「わたしに従ってきなさい」という愛に満ちたキリストの招きを私たちが受け入れること、それが私の祈りです。イエス・キリストのみ名によってお話いたしました。アーメン。(ソルドレーク・タバナクルにおけるファイヤサイドの話より)

質疑応答

本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

聖典に出てくる「岩」（「石」という言葉の象徴的な意味は何でしょうか。



解答者

ロバート・J・マシュウス

（ブリガム・ヤング大学宗教教育学部長）

経験ある建築家なら、土台のしっかりしていない建物は耐久力がないことをよく知っているはずだ。古代の建物の土台として欠かせなかった「岩」や「石」という言葉は、聖典の中では力や堅実さ、忍耐を表わす「比喩」として使われている。予言者たちはこのような比喩を多方面

にわたって取り入れており、私たち自身の生活の基盤として霊性が必要なことや、神が確固たるご性格を持っておられることを表現するのに用いています。

予言者たちの言葉をよく読んでみると、この象徴的な言葉の持つ深い意味がわかります。

モーセは、イスラエルの神を「岩」と言っています。「わたしは主の名をのべよう、われわれの神に栄光を帰せよ。主は岩であって、そのみわざは全く……主は真実なる神であって、偽りなく……」（申命32：3-4）またダビデはこのように書いています。「主はわが岩、わが城……わが盾……わが高さやぐら……」（サムエル下22：2-3）エノクは主が次のように言われるのを聞きました。「われは救世主なり、シオンの王なり、……天の岩なり。」（モーセ7：53）パウロは、モーセに導かれていたイスラエルの民についてこのように言っています。彼らは「みな同じ霊の飲み物を飲んだ。すなわち、彼らについてきた霊の岩から飲んだのであるが、この岩はキリストにほかならない。」（Iコリント10：4）ニーファイは主を「わが救いの岩」「わが義の岩」（IIニーファイ4：30、35）と呼んでたたえています。また族長ヤコブは、主を「イスラエルの岩なる牧者」（創世49：24）と呼んでいます。この岩は、末日の啓示の中でイエス・キリストであることが明らかにされています。「この故にわれ汝らの中にあり。われは善き牧者にしてイスラエルの首石なり。この磐の上に築く者は決して倒るることなし。」（教義と聖約50：44）

イザヤは主のことを特にこのように言っています。「試みを経た石、堅くすえた尊い隅の石である。」(イザヤ28:16) パウロは、神の家族に属する忠実な聖徒たちについて「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」(エペソ2:20)と説いています。

予言者たちは、イエスが世の人々から拒まれることを予言しながらも、イエスこそが救いに至る唯一の道であることを宣言してきました。聖典にはこのように記されています。「家造りらの捨てた石は隅のかしら石となった。」(詩篇 118:22) イエスはユダヤ人の支配者たちに、ご自分がその石であることを話し、さらにこう言っておられます。「その石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それがだれかの上に落ちかかるなら、その人はこなみじんにされるであろう。」(マタイ21:44) またナザレのイエスが死からよみがえったことを人々に伝えたペテロはこう言っています。「このイエスこそは『あなたがた家造りらに捨てられたが、隅のかしら石となった石』なのである。この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。」(使徒4:11-12) イエスを受け入れない人々にとってイエスはじゃま者でした。イエスは、「『つまずきの石、妨げの岩』である。しかし、彼らがつまずくのは、御言に従わないからである。」(Iペテロ2:8) ニーファイ人の予言者ヤコブはこのように言っています。「私は……ユダヤ人が自分か



らつまずいたために、安全に建物が建てられる堅固な基となる石を捨てることを知っている。しかし……この石はユダヤ人がその上に建てることのできる唯一の堅固な最後の大きな基礎になるものである。」(ヤコブ4:15-16)

イエスご自身だけでなく、イエスの説かれた福音も堅固な基、岩にたとえられています。聖霊の力によって神の御子イエスへの証を得たペテロに対し、イエスはこのように言われました。「あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。」(マタイ16:18) この言葉の意味は、予言者ジョセフ・スミスへの啓示の中で明らかにされています。「見よ、誠にまことにわれ汝らに告ぐ、これすなわちわが福音なり。而してわれを信仰すべし、もしわれを信仰せずば決して救わるる能わざるを憶えよ。而して、われわが教会をこ

の磐の上に建てん。まことに汝らもまたこの磐の上に建てらる。汝ら絶えずこの磐の上にあるならば、地獄の門もこれに勝つを得ざるなり。」(教義と聖約33：12-13) 同様に次の聖句でも明らかにされています。

「わが福音なる、わが磐の上に建てよ。啓示の『みたま』も予言の『みたま』も拒むことなかれ。」(教義と聖約11：24-25) 「見よ、わが福音、わが磐、わが救いは汝らの前にあり。」(教義と聖約18：17)

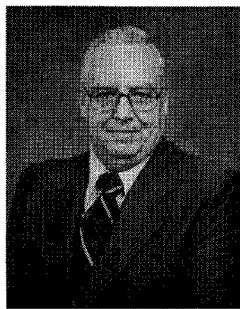
忠実な弟子は、人間の知恵という崩れやすい砂地の上にはではなく、イエス・キリストの福音という確かな土台の上に自分の人生を築いていくでしょう。そのような弟子は「地を深く掘り、岩の上に土台をすえて家を建てる人に似ている。洪水が出て激流がその家に押し寄せてきても、それを揺り動かすことはできない。よく建ててあるからである。」(ルカ6：48)

生ける神こそ真実の神であるように、神に熱意をもって仕える人こそ真の弟子と言えます。ペテロは、忠実な者にとって主は「人には捨てられたが、神にとっては選ばれた尊い生ける石である」と書いています。「この主のみもとにきて、あなたがたも、それぞれ生ける石となって、霊の家に築き上げられ、聖なる祭司となって、イエス・キリストにより、神によるこぼれる霊のいけにえを、ささげなさい……この石は、より頼んでいるあなたがたには尊いものである。」(1ペテロ2：4-7)

この石の持つ権力や威力は、主により山から切り出された石が転がり出て、この世の金、銀、銅、鉄、粘土を砕き散らすであ

ろうというダニエルの言葉の中でも明らかにされています。ダニエルの解き明かしによれば、この石は天の神が地上に打ち建てられる王国のことであり、その王国は人間の知恵や権力によって建てられるほかのどの王国よりも長く永遠に残るのです。(ダニエル2章参照)

アダムまでさかのぼって先祖の系図を調べた人たちがいると聞きました。そんなことができるのでしょうか。できるとすれば、だれでもアダムまで系図を調べる必要がありますか。



解答者

ロバート・C・ガンダーソン
(教会系図部皇貴族関係先任研究員)

こちらの質問も、結論を先に言えば「いいえ」です。説明しましょう。私はこれまで35年間系図を探求してきて、いまだに立証できるアダムまでの系図というものを見たことがありません。仕事柄、長年

家系図を山ほど見直してきましたが、現在の資料から系図の関係が証明できるものはひとつもありませんでした。私個人の考えですが、メロピング王朝（450—752年）以前のヨーロッパ人の系図を歴史的に立証するのは不可能です。この時代から聖書の時代までの溝を埋めようと試みた系図は、どれも疑わしい言い伝えや、極端な場合にはただの作り話が土台になっています。それらの系図は、大体は情報の出所について証明せず、いいかげんな資料を引用しているのです。

質問では、私たちがアダムまで系図を調べあげることが必要かどうかということも尋ねられています。私は、系図探求の真の目的を理解していれば、それは必要ないということ、つまりここで言えば、自分の系図をアダムに結びつけることは不必要だということがわかると思います。実際にアダムまでさかのぼろうと努めてみても、おそらくそれはかえってすべての死者が福音の救いの儀式を受けられるようにするという系図活動や神殿活動の目的を見失わせることでしょう。

現在私の行なっている仕事は、神殿の儀式用に提出された記録のうち、1500年より以前の人々についての確認作業です。それらの記録の90から95パーセントが、すでに儀式の済んだ人との重複であると見ているのですが、それは1500年以前の人たちの大方が神殿の儀式を受け終わっているということではありません。むしろ反対に、当時の人々の大半がまだ儀式を受けていません。問題は、調査手段や使用資料が限られてい

るせいで、この時代を調べる教会員が、前に大勢の人が調べたと同じ所をたどって同じ結果を得ているという点です。ひと握りの氏名が繰り返りリストにのぼる一方で、大多数の名前が失われたままなのです。

その結果、1500年以前、あるいはアダムにたどり着こうとする努力のほとんどが、系図本来の目的に関する限り、徒勞であるように思われます。一方で、それよりずっと責任の大きい自分に近い先祖が、調査手段がまだいろいろ残っているというのに、手つかずである場合が多いのです。

1500年以前の系図を調べるときは、まず系図サービスセンターに照会して、1500年以降の系図探求の可能性が皆無であるとわかってから着手することをお勧めします。1500年以前の資料の発見が新たな神殿活動に結びつく可能性は、特別な導きを受ける以外、ゼロに等しいからです。

いつか主のみこころにかなうときになって、私たちの系図はアダムにつながります。現今の記録の状況を見ると、アダムにまで系図をさかのぼろうという試みは、「作り話やはてしのない系図などに気をとられることもないように、……そのようなことは……むしろ論議を引き起させるだけのものである」（I テモテ1：4）というパウロの忠告に反するおそれがあるように思います。

仕事の量から見て、すべての教会員が何らかの形で系図に携わることが必要です。しかし同時に、能率的に効率よく仕事をすることも大事です。無用な仕事に時間や資料を浪費している暇は、私たちにありません。

主は我が心を 変えたもう

バイオレット・M・テイト
(リー・S・レイニーの聞き書きによる)

どれほど主人を愛しているかがわかるのに50年もかかりました。

主人はアルコール中毒で、家庭生活は悪夢のようでした。激しいけんかや苦渋に満ちた会話が絶えず、口から出る言葉は相手を傷つける耳ざわりなものでした。

私たちの結婚で愛と呼べるものはほんのわずかでした。家族が耐えている辛苦のすべてが主人の責任だと決めつけ、やることなすこと悪くとっていました。主人を怒らせ、飲酒を軽べつしていたのです。

あるとき、ホームティーチャーに私のぐちを聞いてもらいました。少し話を聞くと、彼は私の言葉をさえぎってやさしくこう言いました。「テイト姉妹、ご主人の良いところも探してみてもはいかがですか。あなた方ご家族のために食物や雨風をしのぐ場所を与えてくださっているではありませんか。正直に負債を払っているのですよ。ご主人の良いところだけを見て、神の平安を得てみてはどうでしょう。」

でも私にはできませんでした。主人のトムが助けを必要としていたことなど、考え

も及ばなかったのです。目に映るのは私の不幸だけでした。ひどい自己憐びに陥って自分のことしか頭になく、ほかの人の問題を思いやることができなかつたのです。

50年の結婚生活を経て出した結論は、もうこれ以上続けられない、がまんも限度にきてどうしようもないということでした。私たちには希望のかけりも残っていない有り様で、神に助けを願い求めました。

天父は驚くべき方法で祝福してくださいました。私が夢みていたよりもずっと豊かな祝福でした。

友人が何年もの間、アルコール中毒患者を持つ家族や友人の集いに出席するよう私に勧め続けていました。彼女のご主人もアルコール中毒で亡くなり、私の苦しみがよくわかっていたのです。しかし私は自尊心が強く、信仰も薄かったので、主から直接に示される奇跡以外は何の助けにもならないと信じ込んでいました。

末の娘のマデリンが私の代わりにその集会に出席し、大いに励まされて帰ってきました。そして私も、かすかな望みがあるか

まず私のなすべきことは、自分の生活を悔い改めて完全にすることです。主人をのろつたり、責めたりすることではなく、彼のために祈ることなのです。



もしれないと思うようになり、次の集會に出席して自分で確かめようと決心したのです。

集會場に着いたとき、見つけたばかりの希望に障害が待ちかまえていました。当時私の足は関節炎のためにほとんど動かず、歩くのはとうてい無理だったからです。その建物の階段には私がかまえる手すりがなく、どうやって階段を上ろうか思案にくれました。足の痛みがこらえきれず、何年間もつぶやいてきた不幸な出来事や批判が再び口をついて出てきたのです。

タバコをすう人、コーヒーを飲む人、すべてが腹立たしく、自分の標準に照らして自分だけが正しいと思っていました。そこにいる非教會員がどうやって私を助けることができるのでしょうか。

グループの指導者が、20分間で自己紹介と経験談を話すように言ってくれたので、何もかも打ち明けました。家族がずっと悩んできたこと、主人が11人の子供たちにかけた苦勞などを話しました。すべての責任は主人にあって、すべての問題は主人の行動にあることを。こんなことでは毎週教会に行くこともできず、よき伴侶になろうと思っても無理なことを強調しました。怒りと苦痛で、私にも責められる点があることにまったく気づかなかったのです。私たちの不幸をすべて主人の責任にして満足していました。

話が終わると、指導者は静かに語り始めました。「テイトさん、ひとつのことを知っていただきたいと思います。あなたがここにいらっしやったのは、ご主人の飲酒をどうにかするためではないのです。何もして

あげられなくても、彼はやめられるでしょう。ご主人は自分でやめたいと思い始めています。あなたはあなた自身の気持ちを落ち着かせるために、ここに集っているのですよ。」

彼の言う通りだと思いました。私が変わらなければならないことに気づきました。私がつけてきた態度がいかにも誤っていたか、そしていかに福音を実践していなかったかを、そのとき初めて知りました。主人が飲酒をやめられるような奇跡を期待して集會に参加したのですが、不意に、過ちは彼ではなくて私自身にあったことに気づいたのです。聖霊は、私が自分本位で正直になれず、主人が私を必要としているときに背を向けていたことを教えてくれました。

我が家のけんかや言い争いは主人ばかりのせいではなく、責任の大半は私にあったのです。

思えばひどい50年でした。その歳月の重みがずっしりと私の胸にこたえました。50年の間、家庭内の論争の火つけ役は私だったからです。まったく救い主の模範に従わず、あたかも傷ついた動物のように、やられたらやり返そうと目を血走らせていたのです。50年かかってやっと間違いに気づき、主の道を理解することができました。50年以上も教会に集いながら、その晩の集會に出席して初めて、福音が教える愛の原則の真髓に触れたのです。

これは私にとって、目ざめるまたとないよい機会になりました。私の心はアルマのように完全に改まりました。(アルマ5：14参照) 恐れとわがままな心が消え、自分の弱さを思うにつけ、今まで怒りをぶつけて

私はこれまで福音の真髄を理解していませんでした。私の……過った歳月を理解していただくために、今にも崩壊しそうな結婚生活の話を聞いていただきました。

きたトムに深い愛と憐れみを感じるのです。長い間、主人が私や子供たちの前からそっと姿を消してくれないかと願っていたのが、今では、思ってもみなかったことで主人を気づかい、愛することができるようになりました。我が家にもう一度愛と幸福が戻るよう、天父に心から願い求めました。

そのときの私は、50年間のどの瞬間よりも幸せでした。家庭に聖霊の導きをとどまらせる秘訣は、独善的な考え方を改めることです。まず私のなすべきことは、自分の生活を悔い改めて完全にすることです。主人をのろったり、責めたりすることではなく、彼のために祈ることなのです。私が家族に模範を示したときにこそ、我が家に平安が戻ってくることでしょ。

私は自分を変えることに真剣でした。心を振り絞って祈りました。すぐに効果が表われ、トムは私と共に変わっていきました。私がかんや要求や不平を口にしなくなると、主人も私に毒づかなくなりました。私がやり返さなくなったので、主人もけんかをしかけなくなりました。

トムは完全にお酒をやめたわけではありませんでした。私が自分のことに気づいてから2年後に、トムはガンで亡くなりました。それでも天父は私に、人を愛し、やさしく説得する方法を教えてください、夫婦間のわだかまりすらも祝福してくださいました。

トムが居酒屋へ行くと言い出したときも、

ソーダ水で済ませることがありました。もうアルコールは飲まないと約束してくれたのはそのときです。

私は彼の目を見つめながら言いました。「ねえトム、今から私はあなたを信じます。あなたに向かって大声でわめいたり、けんかをしかけたりしません。あなたにも自分の人生があるんですものね。私が間違っていましたわ。あなたを傷つけるようなことを言ったり、したりしてごめんなさいね。償いをさせてくださいね。主の道を行なえるように努力するつもりですから。」

主人は誇り高い人でしたから、私の話が聞こえなかった振りをしていました。それでも私の気持ちは主人に通じたと思います。

こうして家族みんなの心がまとまってきました。どう見ても完全とは言えませんが、主の望まれるような生活をしようと決心し、今でも努力している最中です。

私はこれまで福音の真髄を理解していませんでした。私の送ってきた過った歳月を理解していただくために、今にも崩壊しそうな結婚生活の話を聞いていただきました。しかし私の心は変わり、「ああ、この時私の感じた喜びと、私が見た驚くべき光とはいかにも大きかった」(アルマ36:20)のです。

* バイオレット・M・テイト：現在は9児の母、オードゥボン・テラウエ支部に所属

分類にとらわれず

独身者の生き方

ジャン・アンダーウッド





大学を卒業してからまだ数年しかたっていないのに、大学で学んだことは記憶から次第に遠のいています。必要に迫られて思い出そうとしても、「確か、そんなことを大学で習ったな」ぐらいにしか答えられません。

それでも繰り返しているうちに、鮮明な記憶となって心に残っているものがいくつかあります。その中のひとつは思いもよらないところからきています。もっと良い調査技術を習得できないものかとクラスで悪戦苦闘していたときに、講師がある簡単な原則を教えてくださいました。以来それは、私の物の見方の基本となっています。彼の説明はこうでした。「いいかな。ひとつの分類の中にも、いくつかの分類間にあると同じくらいの違いが見られるということなんだよ。」逆から言えば、別々のグループの人々には、同じグループの人々と同じくらい多くの共通性が見られるということです。私が「25歳以上の独身女性」という分類に入ってから、この考え方は社会や教会、主の計画への対応の仕方で大いに役立ちました。自分の基本的な目標や希望という点で、結婚している友人との間に、相違点よりも類似点の方が多くあることがわかったのです。

イエス・キリストに従う者はすべて、姿形や体の大きさ、知力や言語、教会の召し、未婚既婚に関係なくふたつの基本的な目標を持っています。すなわち全身全霊で主を愛し、隣り人を愛し奉仕することです。イエスは、これらのふたつの戒めに弟子としてのすべてがかかっていると言われました。
(マタイ22：37-40参照)

救い主がこの召しを、種々の事情に関係なくすべての人にお与えになることを知っ

報いのある結婚や家庭生活には、赦しや励まし、譲歩というある種の技術を伸ばす必要性があります。

て、私が生涯になすべきことは結婚するまで待つ必要がないことがわかりました。福音を実践するときは今なのです。いつの日か私の人生に夫や子供が加わるとき、到達する方法は違ってても基本的な目標は変わらないことでしょう。

しかしながら、独身女性として私がこの万人に共通の目標に至るためにとる方法は、結婚している友人たちのそれとはいくつかの点で違うはずです。共通の目標とは言っても、独身者の生活はチャンスと同じくらいチャレンジがあるからです。私はこのふたつを理解してからは、結婚生活にあこがれることはあっても落胆することはなく、物事に集中できるようになりました。

私は長い間、独身者にとって一番のチャレンジは第二の戒めを守る方法を見つけることだと思っていました。家族には永遠に殖える属性があり、その枠組の中での生活にはキリストの純粋な愛の賜が必要です。第三者的な見方をすれば、家庭生活は人を清め、みがくよい経験であり、個々の我を克服する助けになると思うのです。実際のところ、惜しげなく愛し、進んで犠牲を払うことが求められます。夜中の2時に、疲れた両親がせめてもう1時間眠りたいと

思っても、おなかをすかした赤ん坊がじっと待ってられる訳がありません。夫婦間のもつれにしても、部屋を別にしたり、別居したりという単純なことでは解決しないのです。報いのある結婚や家庭生活には、赦しや励まし、譲歩というある種の技術を伸ばす必要があります。

親は、自分を頼りにする子供たちの幸せのためにはどんな犠牲をも払うことを主から期待されています。結婚している友人たちもこのことをよく承知しています。しかし私たちは、主が自分にも同じような期待をかけておられることをつい忘れてしまうのです。私たちのすぐそばに、常識的な目では見えない人間の欲求がいろいろな形で存在することを見落としがちです。事実、どの地域社会でも飢えた子供、孤独な老人、落胆している人を抱えています。そこで私のチャレンジは、独身という個人的な事情を超越して、主が全人類に与えられた戒め、すなわち人に愛と奉仕を捧げるための方法を探ることです。

独身者は社会に対して大いに貢献できると思います。家庭生活にエネルギーを使う必要がないので、既婚者たちの手が及ばない人々、母親や父親のない子供たちに手を差しのべることができます。夫婦がお互いに、あるいは子供を通して得られる心豊かな喜びは、すべての独身者にも受けられるのです。なまやさしいことではないでしょう。しかし私たちが人を愛し、人のために働くとき、必ず愛と喜びの賜がもたらされるのです。

奉仕が もたらして くれるもの

中央扶助協会会長会との 対談から

出席者

バーバラ・B・スミス姉妹
(会長)

マリアン・R・ポイヤー姉妹
(第一副会長)

アン・スタダード・リース姉妹
(第二副会長)

注：この記事は、バーバラ・B・スミス姉妹ならびに彼女の2名の副会長が解任される以前に作られたものである。スミス姉妹は中央扶助協会会長の職をほぼ10年務め、マリアン・R・ポイヤー姉妹は1978年11月から、アン・S・リース姉妹は1983年10月から、それぞれ第一副会長、第二副会長の任にあった。この3名の解任に際し、ゴードン・B・ヒンクレー第二副管長は次のような賞賛の言葉を送っている。「この3人の姉妹は在任中、特筆すべき働きをしてくださいました。」

この対談は、旧会長会の働きに感謝の意を表するとともに、彼女たちによって築かれた伝統とスピリットがバーバラ・W・ウインダー姉妹を会長とする新会長会に受け継がれていくことを考慮し、このまま掲載することにした。

編集委員：女性が今日の様々なチャレンジに対処していくうえで、扶助協会はどのような助けができるのでしょうか。

リース姉妹：扶助協会は女性と女性の所属する家庭や家族を強めてくれる組織です。また女性が教養を深め、地域社会における慈善奉仕を積極的に行なえるよう助け、女性たちが今日の世の中にあって安らかな喜びあふれる生活を送れるように導いてくれる組織です。

スミス姉妹：扶助協会の教育プログラムは、女性が精神的、情緒的、知的、社会的チャレンジに対処していけるよう計画されています。またレッスンはどれもみな福音の原則に基づいています。この福音の原則は、文化の違いや理解力の程度にかかわらず、すべての女性に関係あるものです。レッスンの中では、原則や概念の応用が強調されており、女性が模範によって福音を教えることができるようになっていきます。

編集委員：今の世の中では、自分に必要なもの、つまり自分がどう思い何を望んでいるかといったことが重要視されているように思います。末日聖徒の女性たちがもっとその先に目を向け、奉仕する責任について思いをはせることができるようになるには、扶助協会としてどんな助けができるのでしょうか。

スミス姉妹：まず第一に、私たちは扶助協会を通して、生活のあらゆる分野で才能を伸ばしていくことができます。そしてその才能を伸ばしていくときに、私たちの奉仕の能力はおのずと高められていきます。第二に、扶助協会は私たちにどのように奉仕したらよいかを教えてください。扶助協会の手引きの中でも指摘されているように、扶助協会の主な目的の中には「貧しい人、病人、不幸な人の世話をすること、不幸のあった家族を援助する」(p. 1)というも



左からマリアン・R・ボイヤー姉妹〔第一副会長〕，パーバラ・B・スミス姉妹〔会長〕，アン・スタダード・リース姉妹〔第二副会長〕

のがあります。扶助協会のおかげで、私たちは世の人々よりも高いビジョンを持つことができます。つまり、自分の持っている才能を使って人々に奉仕するときに、必ず心の中に喜びと安らぎの気持ちを感じるようになるということです。

編集委員：ほかの人々の必要に心を向けながら、なお自分自身の必要を満たしていくにはどうすればよいのでしょうか。

スミス姉妹：私たちに必要なもので、最も大切なことをひとつあげるとしたら、それは「奉仕」ではないでしょうか。私たちは奉仕をすることによって、貪欲や利己心、憎しみ、羨望せんぼうなど、自分を破滅へと追いや

る気持ちを捨て去ることができます。そして代わりに、無私心や愛、救い主の生涯に見られる献身的な気持ちを持つことができます。こうしたキリストのような属性がなければ、人生において本当に大切な、また必要な事柄を達成することはできません。

編集委員：奉仕をする際、家族や友人という枠を越えたところに目を向けるにはどうすればよいのでしょうか。

スミス姉妹：まず自分の身近な人々への奉仕から始めていってはよいでしょう。ただし、対象を自分の家族だけに限ってしまうことのないよう、気をつけなければなりません。女性の場合は、家の子供たちや友

人、祖父母や親戚、仕事の同僚といった自分が自由に動けるところから始めていくとよいと思います。大切なことは、愛をもって「毎日」だれかに奉仕の手を差し伸べることです。場合によっては、私たちの愛の込められた努力がむだに思えるようなときがあるかもしれません。しかし、愛がむだになるということは決してないのです。愛する相手が小さな子供であっても、ひとりぼっちの姉妹であっても、だれでも同じです。私たちの心をみがいてくれる愛の力は、愛する相手が私たちの愛に報いるかどうか、感謝するかどうかにかかわらずあります。私たちは愛するときに成長していくのです。

ポイヤー姉妹：どのような状況にあっても、姉妹たちはみな家庭で奉仕することができます。たとえば、私たちの中央扶助協会の書記をしてくださっている姉妹には子供がいませんが、彼女はよそのお子さんを愛し、その手助けをしています。今こうして私たちが話している間も、彼女は姪と姪の生まれて間もない赤ちゃんと3歳の男の子の世話をしています。日頃常に「人のために何ができるかしら」と考えられるようであれば、私たちは正しい行動をとっていることになります。ひとり暮らしの女性でも、きっと自分にしか与えられていないすばらしい祝福に気づくことができるはずですよ。

編集委員：母親業と仕事を兼任せざるを得ない未亡人や離婚した女性はどうか。彼女たちに対して、扶助協会はどんな助けができるのでしょうか。

ポイヤー姉妹：私たちは、女性をどんな状況にも対処していけるよう備えさせるために、できるだけのことをしなければならぬと思っています。私たちは、これといった十分な訓練を積んでいない姉妹たちが、

家族を養っていくために大変な経済上の問題にひとりで取り組んでいるのを知っています。また自分の力だけで子供たちを育てている女性が大勢いることも知っています。彼女たちは、つい数年前私たちが必要としていた知識の何倍もの知識を求められているのです。ホームメイキングの集会では、女性たちがクレジットの上手な利用の仕方や予算の立て方、簡単な家屋の修理などの実技を身につけられるよう配慮しています。

編集委員：家にいて子供の世話をするとするのは、理想だと思のですが、何らかの理由でそれに満足できない姉妹たちについてはどうでしょうか。彼女たちはどうしたら扶助協会の計画に適應していけるでしょうか。

ポイヤー姉妹：ひとりで住んでいようと10人家族だろうと人数に関係なく、だれにでも家庭はあります。そしてどの家庭も、訪問した友達が愛と温かさを感じとれる、整った心地良い学びの場であってほしいと願っています。ひとり住まいだからといって、いつもひとりで過ごす必要はないのです。そのような家庭は、そこを訪れる多くの人々にとって祝福ともなるのです。

編集委員：姉妹たちがお互いに助け合ううえで、家庭訪問はどのように役立つでしょうか。

リース姉妹：私は、家庭訪問というのは組織として私たちに与えられている最も力強いプログラムのひとつであると思っています。教会のすべての女性には、訪問教師として働く特権と機会が与えられています。訪問教師が担当の家族に福音のメッセージを携えて行き、彼女らの必要に応えられるよう努力するとき、それはその人本人の成長につながります。女性というのは、話し相手が欲しくなるときがよくあるものです。家庭訪問はそうした必要を満たしてくれま



私たちは奉仕をすることによって、貪欲や利己心、憎しみ、羨望など、自分を破滅へと追いやる気持ちを捨て去ることができます。

愛する相手が小さな子供やひとりぼ
つちの姉妹であっても、愛がむだに
なるということは決してないのです。

す。また家庭訪問プログラムは、改宗したばかりの姉妹を歓迎する重要な役目を担っています。担当家族に対し常に心を配っている人は、普通は見過ごされてしまうような事柄にもよく気がつくものです。

スミス姉妹：姉妹の皆さんは、自分が最も良い影響を与えられると思う人を担当家族として迎えられよう祈っていただきたいと思います。また訪問教師が担当の姉妹の必要に応える際に、主のみたまを受けられるよう祈っていただきたいと思います。私たちにはそうする責任とお互いに奉仕し合うときに主が必ず助けてくださるということを知る特権があるのです。家庭訪問が充実し、成功を収めている所では、扶助協会やほかの教会の集会への出席もよく、より多くの人々が福音の祝福に浴していることがわかっています。

編集委員：家庭訪問プログラムで、最近どこか変更されたところがあるでしょうか。

スミス姉妹：はい。これまで扶助協会の会長は、訪問教師から毎年一定回数、口頭による報告を受けるよう指示されていましたが、最新の手引きでは、特に回数は指定されていません。地元の扶助協会会長は、訪問教師からどのようにして姉妹たち一人一人の必要を知らせてもらうかまたその必要を満たしていくにはどうすればよいかを考えなければなりません。また訪問教師との面接をどれくらいの割合で行なうかも、

会長自身が決めるようになっていきます。もちろん特別な問題がある場合は、会長が訪問教師から直接速やかにその旨の報告を受けるべきです。扶助協会の指導者たちには、家庭訪問の書面による報告だけでなく、口頭による報告の大切さも認識してほしいと思います。

編集委員：ここで、扶助協会のもうひとつの面に目を向けてみたいのですが。教会の女性がほかの女性と比較してとても前向きな考えを持っているという理由で、教会に来る女性がいるということですが、こうしたすばらしい違いはどこから来るのでしょうか。

スミス姉妹：何度も言うようですが、それは私たちが携わっている奉仕のおかげだと思います。最近訪問したあるステーク部の女性たちは、みんなで協力してひとつの計画を実行しようという話が出るまで、それぞれがいろいろな問題に悩んでいたということでした。彼女たちが一致してその計画に携われるようになって、そうした協力の精神からすばらしい姉妹愛が生まれてきました。自分を捧げるそのときから、私たちは幸福感にひたることができるのです。そして自分の周りに安らいだ、幸せな雰囲気漂っていると、人々はそれに気づいてくれます。

幸福になるためのもうひとつの鍵は、強い決意と達成感を持つことです。主は私たちに変化に富んだ世界をお与えになりました。またいろいろな人を造られ、それぞれ異なった状況に置かれました。私たちは皆それぞれ異なった賜、可能性を持っていますが、イエス・キリストの福音は私たちの生活すべての基本でなければなりません。私たちには、現在置かれている状況を越えて、キリストのような生き方をするための力があるのです。

不都合なときに多い 本当の奉仕

七十八第一定員会会員
ボーン・J・フェザーストーン

私は先日、伝道部長セミナーを終えて帰宅しました。終日集会有り、すぐに飛行機でソルトレーク・シティーに帰ったのですが、家に着くまで17時間ほど一睡もしませんでした。寝間着に着替えてベッドにもぐり込み、妻と1、2分話をしていると、電話が鳴りました。

小学生時代からの友人の電話でした。「ボーン兄弟、」彼は震える声で言いました。「娘がまた病院に戻ったんですよ。重い発作を何回も起こしましてね。2度ほど呼吸が止まりました。今は酸素吸入をしていますが、衰弱が速いんです。」

私は、灌油の儀式を受けたかどうか聞きました。

「いえ、まだです。あなたに祝福していただきたいと思ってたんです。」

私の体は疲れていました。ようやく休めると思った矢先でした。妻も私を家に迎えてほっとしたばかりで、肉なる私は躊躇しました。しかし、霊は何をなすべきかははっきり知っていました。私は言いました。

「ジョー、30分で行くよ。」私の家はソルトレーク・シティーのユタ大学病院から30分の所にあるのです。

私は妻を振り返り、一緒に行くかどうか

尋ねました。行きたいという返事でした。ふたりで起きて身支度をし、車で病院に向かいました。

私は46年来の愛する友を抱き締めました。そして小部屋を見つけて、家族と共に切なる信仰の祈りを捧げました。

それから、ジョーと私は集中治療室へ行き、娘さんに祝福を施しました。主に嘆願すると、彼女は主のみ守りの中にあるという温かい平安な確信が胸に満ちました。でもそのとき、祝福によって彼女の命が助かるかどうか、私にはわかりませんでした。

愛する妻はその間、車の中で待っていました。私たちは帰宅しましたが、もはや疲れ切ってはいませんでした。自分たちが召しを受けるに値したことを深く感謝しました。この話を書いている今、ジョーの娘さんは元気です。彼女は奇跡です。

キリスト教徒らしい奉仕の機会は、いつでも都合の良いときにやってくるとは限りません。私は今から2、3年ほど前、南カリフォルニアを訪れたことがあります。ステーキ部を再組織してから、空港へ行ってくつろぐと支度をしているときに、ひとりの婦人がやってきました。落ち着いた年頃の婦人は、「フェザーストーン長老、長老

はきょうソルトレーク・シティーへお帰りですか」と尋ね、私は「はい」と返事しました。「4時の便でお帰りですか」と聞かれ、その通りですと答えると、彼女は「お願いがあるのですが、よろしいでしょうか」と言いました。私は終えたばかりの日程をちらっと思い浮かべ、疲れた体にほんの少しでも休憩がほしいと思いました。きっと親戚に手渡すものを託したいのだろうと考えました。私はやむを得ない場合以外、手荷物を預かるということをしなないのです。彼女に頼まれる荷物は、もしや機内に持ち込めないものではないだろうかと思案しました。手荷物引き取り所で待つことを考え、どこまで運ばなければならないのかとも思いました。しかしそれは一瞬で、いつものように、みたまがむなししい言い訳をそっくり脇へ押しつけ、私は奉仕を第一とする指導者らしく返事をしました。

「はい、できることでしたら喜んで。」すると婦人は言いました。「孫のフィリップが半月ほど私のもとにいますのですが、ソルトレーク・シティーまで一緒にさせていただけませんか。2歳半です。母親が空港に迎えに出ます。」私たちはロサンゼルス空港で待ち合わせることにし、空港でフィリップと会いました。飛行機に乗る直前になって、婦人は私に言いました。「この封筒ですが、どうぞ飛行機の中で読んでください。」そう言われた訳は、あとになってわかりました。

私がフィリップと飛行機に乗り込み、ポケットから手紙を出して封を切ると、そこにはこのようなことが書いてありました。

「敬愛するフェザーストーン長老、フィリップをソルトレーク・シティーまでお連

れくださいますこと、ありがとうございます。感謝申し上げます。母親が出迎えるはずですが、万一来ておりませんでしたら、このようにしてくださいませ。」

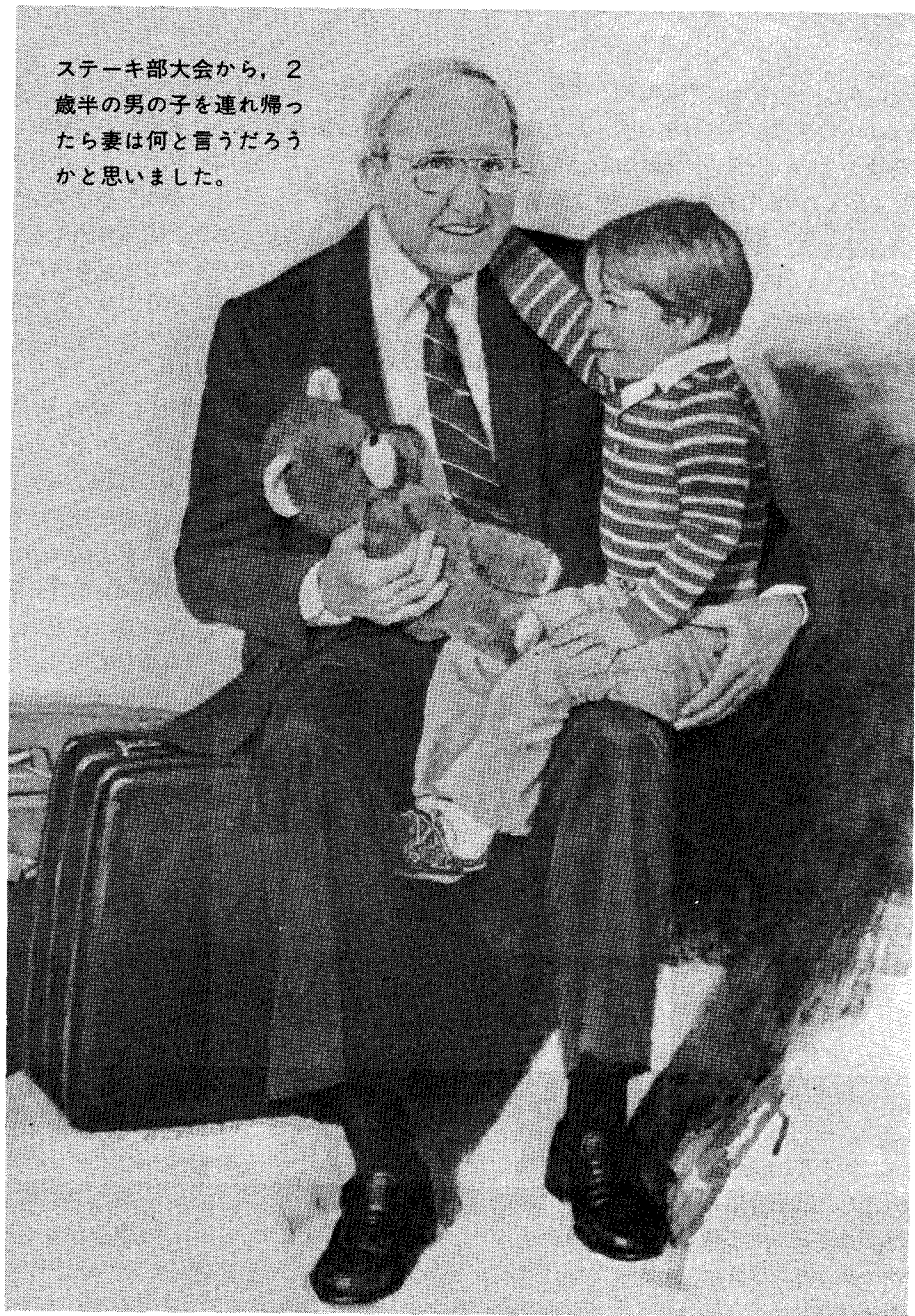
それからこうも書いてありました。「飛行機に乗られてからと申しあげたのは、厚かましいお願いをふたつもする勇気が私になかったからでございます。実はフィリップの兄のリッキーがユタ大学病院に入院しております。日に何度も発作を起こします。お医者様も手を尽くしてくださいましたが、それでも治りません。もしできましたら、病院に寄ってリッキーに祝福をしていただくわけには参りませんでしょうか。」

ソルトレーク・シティーに到着すると、私たちの出迎えはだれもいませんでした。空港の長いターミナルを歩いて行く間も、フィリップに声をかける人はいませんでした。私たちはエスカレーターで下へ降り、手荷物引き取り所を通りすぎて通りに出ました。私は結婚以来おかしなことをときどきしてきましたが、ステーキ部大会から2歳半の男の子を連れ帰ったら妻は何と言うだろうかと思いました。

フィリップと立ち止まって少しあたりを見まわすと、ちょうど彼のお母さんが車を運転して来て私たちのそばで止まりました。空港までの途中、交通が渋滞していて遅くなったのでした。やさしい母親はとても親切で、うれしそうにフィリップと荷物全部を車に載せました。

それから少しののち、私はユタ大学病院の小児病棟にいました。1室6名ほどの子供がおり、掃除夫が床のモップがけを済ませると部屋を出て行きました。あとに残っ

ステーキ部大会から、2
歳半の男の子を連れ帰っ
たら妻は何と言うだろ
うかと思いました。



たのは6人のかわいい子供たちと私だけでした。

私はリックキーのベッドを確かめ、そばへ行きました。「私の名前はボーン・フェザーストーンと言います。私がたった今、だれと会ってきたかわかるかな。」「ううん、わからない。」「きょう、ロサンゼルスから帰って来たんだけど、君の弟のフィリップを家に連れて来たよ。私がここに来るって、フィリップに話してある。」「リックキーはまだ4歳でしたが、目に涙があふれました。弟がなつかしいのです。

私はそれから彼に言いました。「リックキー、私はスペンサー・W・キンボール大管長の友達なんだよ。キンボール大管長はリックキーを愛している。キンボール大管長は予言者だ。君のおばあさんがリックキーを祝福してくださいと私に言われたんだけど、手を頭の上に置いて祝福をするというのはどんなことか、リックキーはわかるかい？」彼は「うん」と答えました。「リックキー、君はイエス様が生きていらっしやると思うかい。」「はい」という返事でした。「イエス様はリックキーを愛していらっしやるのがわかるかな。イエス様は君の病気が治せるということ、知っているかな。」彼は「はい」と答えました。それから私は聞きました。「リックキーは、病気が治るように、私から祝福を受けたいですか。」彼は「はい」と言いました。

私は両手を頭にのせ、リックキーに祝福を施しました。病室におもしろいことが起こりました。ほかの子供たちが遊ぶのや泣くのをやめて耳を澄ましている様子なのです。

祝福が終わると、私はポケットから自分

の名前が書かれたニス塗りの小石を取り出しました。どなたかからいただいた物です。母親が来られたときに私の来たことがわかるように、その石をリックキーにあげました。

それから2年後、私がテネシー州キングスポーツステーキ部を訪問したときのことです。大会が終わってからひとりの若い母親がやって来ました。そしてフィリップの世話を頼み、祝福をお願いしたのは自分ですと言います。「祝福の結果をご存じですか」と聞かれました。わかりませんと答えると、彼女はすばらしい奇跡のことを話してくれました。「リックキーは長老の祝福を受けてから一度も発作を起こしていません。」

フィリップを家まで連れて帰るのは気楽なことではありませんでしたし、ユタ大学の医療センターへ行くのも楽なことではありませんでした。しかし、それはイエスが望まれることでした。奉仕するときは、いつも「イエスならどうされるだろうか」と考えなければなりません。

先日私は親しい友人から、父君が亡くなられたという電話を受けました。お悔やみを述べて葬儀の日取りを尋ね、自分のカレンダーを見てから、私は言いました。「御尊父の葬儀にぜひとも出席してお別れしたいし、母君にもじかにお会いしてお悔やみを申しあげたいのはやまやまです。しかし仕事で旅行に出るところなので、当日はめつたにないほど忙しいのです。」すると彼は言いました。「そうですか、ご多忙でなければお話を頼もうと思っていたのですが。父はご無理のないように、ご都合がつくならお願いせよと生前言っておりましたから。」そのとき、たちどころに全部の日程が

調整できたのはおもしろいことです。私は言いました。「母君に、出席いたしますとお伝えください。」その葬儀のあとで、私は一通の手紙を受け取りました。一部ですが読んでみたいと思います。

「この数カ月の間、夫は死期の近いことを知っておりました。葬儀の手はずについて話し合っておりましたときに、どなたにお話をお願いしたいか夫に尋ねましたら、『フェザーストン長老にぜひお願いしたい。しかしお忙しい方だから無理だろう』と言うのです。夫はほかに立派な方々のお名前をあげました。長老がおいでくださると聞きましたときは、うれし涙があふれて参りました。たくさんのお仕事や責任を抱えておられるのに、葬儀に列席して下さるなどとは、本当に信じられないことでした。」

そのとき、自分のこの奉仕が彼女にとってどのようなものであったかが初めてわかったのです。終わりにはこう書かれました。「主はなんとおやさしいお方ででしょうか。」

主に対する大きな愛を彼女に満たしたのは、ボーン・フェザーストンが話したためではなく、死にゆく夫君の願いがかなえられたためであったことは、私もまた皆さんもよくわかることです。

年若い友人たち、この先、不都合な場合でも行なうべき奉仕について考えてみてください。主に対して行なう奉仕の大半は、都合の良いときにはやって来ません。いくつか考えてみましょう。

学業なかば、交際の途中、職業訓練の最

中に来る1年半の伝道の召し。

成績向上のために頑張ろうというとき、社会活動に打ち込もうというときにやってくるワード部の召し。

教会での話の責任。

ホームティーチングの訪問。

多くのステーク部で朝の6時からという不都合な時間に始まる早朝セミナー。

病気の友人の見舞い。

生徒会選挙に立候補した友人の応援。

パンクなどの故障で路上に止まっている車の修理の手伝い。目的地に向かう途中で車を止めて手伝うのはなかなかむずかしいものです。

未亡人や近所で困っている人の雪かきや雑草取り。自分のスケジュールが一杯の日のそうした奉仕です。

一生のうちにだれにでも訪れ、しかし不都合なときにやって来ることも多い奉仕の機会は、まだいくらでもあげられます。忙しすぎると決めつけることはできますが、たいていはそれはただの弁解です。「仕事は忙しい者にまかせろ」とのことわざは、その通りです。私たちは隣人に奉仕すべく生まれついているのです。

愛する若人たち、お互いに奉仕し合おうと決心してください。肉の体が弱くなるとき、あなたの霊に耳を傾けてください。

「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイ25:40)と、まことに主は言っておられます。都合が良くなるともキリスト教徒らしい親切な良い行ないをするとき、祝福は10倍にもなるのです。

15歳

19 67年は私がいろいろな面で大人になった年、私の人生の転換期であったように思います。当時私は15歳で、1月になって私たちは母に6番目の子供ができたことを知りました。私たちは皆大きな喜びに包まれました。もちろん母はそれ以上の喜びようでした。

ところがある日、突然母が流産しかけたのです。父は母を病院に連れて行きました。母は病院で、流産を防ぐための非常に強い薬を投与されました。父は医師から薬で流産は防いでも、胎児の方の知能か身体に障害の出る恐れが多分にあることを聞かされていました。

父はこのことをだれにも話しませんでした。もちろん母にもです。そうした重圧からか、父はすっかりふさぎこんでしまいました。当時父は教会に不活発で、自分を支えていくだけの信仰がまったくありませんでした。母は母で元気がなく、妊娠中ずっと寝たきりの状態でいなければならないことがわかると、ますます落ち込んでいきました。

私には、家の中の悲しみが痛いほど伝わってきました。そして一番年上として、何とかしなければという気持ちになりました。しかし実際どうしたらよいのかわかりませんでした。

そこで私は、ヤコブ書1章5節の神に知恵を求めようという言葉を思い出し、



祝福の年

フレンダ・マルチネス

私はたったひとりで涙ぐみながらひざまずきました。そして、元気な赤ちゃんをお授けください、大切に育てますからと天父に祈りました。

祈ってみることにしました。私はたったひとりで涙ぐみながらひざまずきました。そして、元気な赤ちゃんをお授けください、大切に育てますからと天父に祈りました。また母が赤ちゃんを失うことのないようにとも願いました。このような祈りの言葉を言い終わるとすぐ、私は肩のあたりに温かい慰めの手が差しのべられるのを感じ、すべてが順調にいくという声を聞いたのです。私は泣くのをやめ、このすばらしい知らせを愛する母に知らせたい一心でよろめきながら歩いて行きました。

私が部屋に入って行ったときの母の驚きようは忘れられません。母はちょうどみんなを部屋から出したところでした。私は、母にひと言も話す間を与えないほどすっかり興奮していたのです。私が経験したばかりのことを話し終わると、母は泣いていました。私はかがんで母にキスをすると、部屋を出ました。

しばらくして、母は私を呼び、さっき話してくれたことを覚えているかと尋ねました。私はうなずくと、さっきの話をもう一度しました。すると母は不思議そうにこう言いました。「ほかには？」私には母の言っていることがよく飲み込めませんでした。母に言わせると、部屋の中に入って行ったとき私の顔が輝いていたというのです。そしてそれを見た母には、心配する必要がないこと、子供を失いたくないという彼女の

15歳：祝福の年

強い願いを神様がご存じであることがわかったというのです。そしてその願いがきかれ、どこにも欠陥のない丈夫な女の赤ちゃんが産まれることもわかったというのです。私は母にそのようなことを全部話した覚えはありませんが、母がそうしたことを知りたがっていたのを主はご存じだったのです。

5月18日、わが家に無事女の赤ちゃんが誕生しました。ところがそれから2週間後、母は再び病院に戻ることになりました。ひどい出血があり、もう2週間ほど入院しなければならなくなったのです。

ほかの15歳の女の子たちと同じように、私にもロマンスや結婚のこと、そして赤ちゃんのことなど自分なりの夢や考えがありました。しかしそれらは、当時自分が直面したことに対しては何の備えにもなりませんでした。私には父親のほかに4人の子供たちの朝食、昼食、夕食作り、洗濯、それに産まれて2週間目の赤ちゃんの世話という大変な仕事のできたのです。

とてもできないと思ったときも何度かありました。しかしそうしていくうちに、赤ちゃんとの絆は強まり、まるで自分の子供のように思えてきたのです。ある日、ワード部の姉妹たちが何人かやって来て、しばらく赤ちゃんを預かってあげようと申し出てくれました。しかし結局は、最後まで私たちだけで赤ちゃんの世話をすることに

なったのです。私は姉妹たちに、赤ちゃんを預けたくないので早く帰ってほしいと命令口調で言いました。(どうしてそんなことをしたのか、自分でもわかりませんでした)あとになって、母は来てくれた姉妹たち全員に電話をし、私がどんなに疲れていたかまたあのように失礼なことを言うつもりはなかったことを伝えてくれました。

母が退院して来たときはどんなにうれしかったか知りません。母が久しぶりに目にした赤ちゃんは、もうまるまると太っていました。(それというのも、私は赤ちゃんが泣くたびにお腹がすいているものと思い、ミルクばかりあげていたのです)そんな私でしたが、家族はなんとか全員無事に生きのびてくれました。

その赤ちゃんも今では16歳ですが、長い間家族の慰め、喜びとなってきました。7歳のとき、彼女はお小遣いをため、51セントを父にプレゼントしました。そして、医者に行って酒とタバコをやめる方法を相談するように父に言ったのです。これが父の生活を変えるきっかけとなりました。現在、父と母は神殿での結び固めを受けて6年目を迎えています。ひざまずいて、家族として結び固められたあの経験は、何にもかえがたいすばらしいものとなりました。

*ブレンダ・マルチネス：1児の母、カリフォルニア州オレンジ在住、ワード部母親教育教師

日記による私の改宗

ステラ・マリー・マキヤナリー

私は最近教会員になったばかりですが、正直言って、バプテスマのチャレンジを受ける最終的なきっかけになったのは日記だと思っています。

私が教会に入るのは至難の業でした。今までで一番むずかしい出来事ではなかったかと思います。100パーセント確信して初めて決めるタイプの人間でしたから、何かを決定する前には十分調べてからというのが常でした。

私が初めて福音を聞いたのは、カナダのケベック市でフランス語講座に参加していたときでした。美しいふたりの末日聖徒の女性と共にフランス語を話す家庭に割り当てられたときには、まったく面くらってしまいました。私はとても熱心なカトリック教徒で、末日聖徒には警戒していたからです。家庭の教育方針に従って、私はどんな状況でも最善を尽くし、すべての人を受け入れるようにと教えられていました。私はその通り実行しました。そして教会について綿密な事前調査をしたのです。ふたりの女性は聖霊が私に働きかけるのを知って、彼女たちがどんなに狂気の沙汰に見えようが、あるいは私の信仰といかに反していよ

うが、そのことに関係なく自分の気持ちを綴るようにと強く勧めました。そのときは理由を飲み込みませんでした。彼女たちを尊敬し、信頼もしていたのでそうしました。当時の日記には熱い思いが記されています。

「きょう、初めて話し合った。私の胸に迫るものが何かよくわからない。宣教師が語ったことは、私が18年間信じてきたことと違ってはいても、なぜか彼らを信じさせるものがあった。彼らの語ることには胸躍るものがあった。聞いていてすべてが不思議な感じがした。何度も背筋がぞくぞくした。おお主よ、私の中で何かが起こりつつあります。それが何なのか、私にはわかりません。どうぞ助けてまえ。」

主は実に助けたまい、話し合えば話し合うほど、福音が真実であることがわかりました。教えを拒みながらも、心の奥底ではそれが真実であることを知っていました。そして胸の思いを書き続けました。知識以前に、私には教会に対する証がありました。心を躍らせて家に電話をし、バプテスマを受けることを両親に告げました。しかし帰宅するまで待つようにという両親の説得で、

不承不承そうしました。その晩ひどくがっかりして、涙ながらに日記にこう書いています。

「とても悲しく、気がめいってしまう。自分の決心について何度もお祈りして、福音が真実であることを確信している。ジョセフ・スミスは予言者であり、現在も生ける予言者がいることを知っている。教えられたことをすべて信じ、心からバプテスマを受けたい。それまでは決して私の魂に安らぎがないことを知っている。自分が召されていることを、そしてまたその段階を踏まなければ完全に幸福になれないことを承知している。」

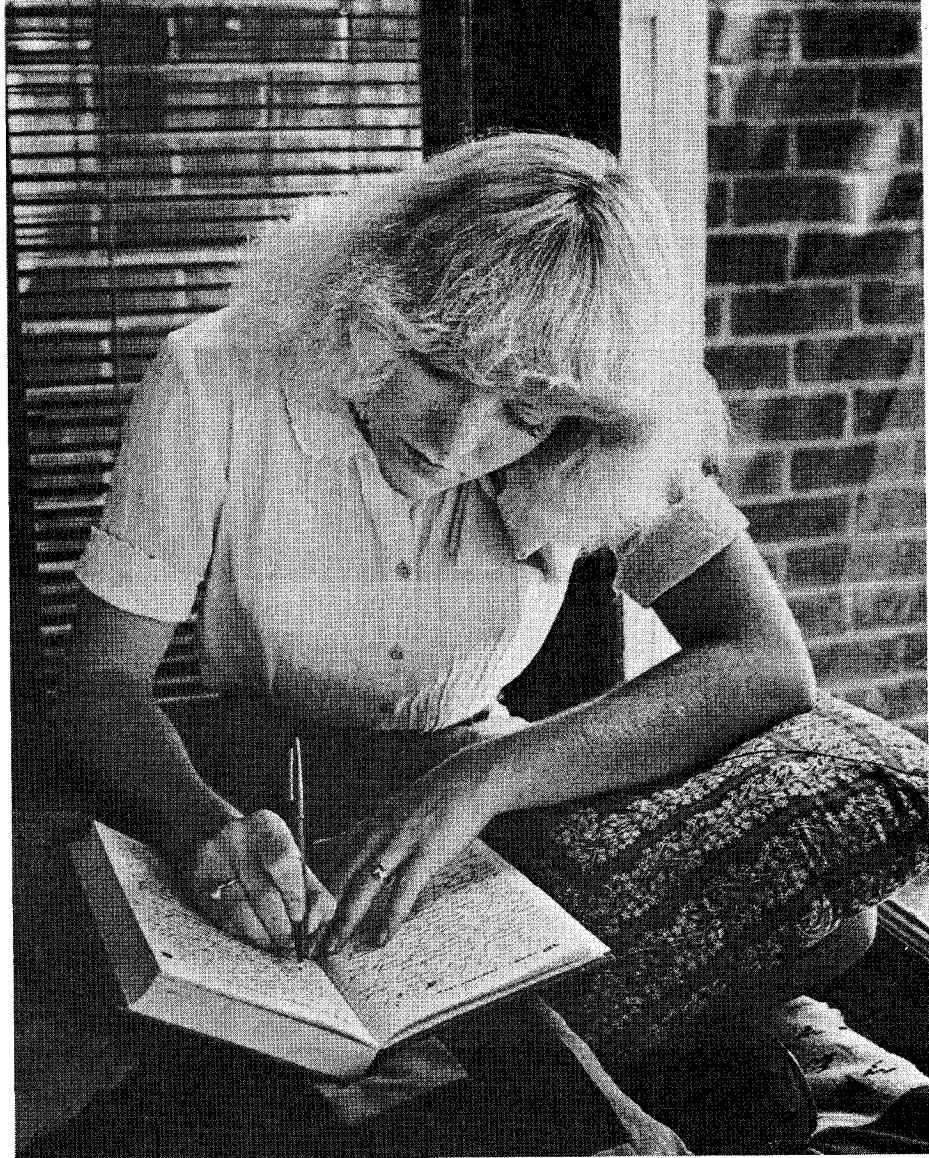
真剣な気持ちで書きました。神が私の行く手を導いてくださっていると感じました。是非バプテスマを受けたいと思って帰宅した私に対して両親は、教会員に無理やり丸め込まれてしまったと思ひ、あらゆる手を使って私に思いとどませようとしてきました。恐ろしいことに私は両親に屈伏してしまい、教会の友人たちとはまったく接触を断ち、証も消えてしまいました。当時の私は末日聖徒とはかかわりを持ちたくないと思ひ、もはや教義も信じていませんでした。それでも「静かなる細き声」(教義と聖約85:6)は相変わらず私に日記をつけるように語りかけていました。あるとき私は次のように書きました。

「むなしく満たされぬ思い。何かを失ってしまったようだ。何かをつかみたいというこの思いは何だろう。私は迷っている。心から道を必要としている。私の証は砕かれてしまった。カトリックの信仰にすがりつこうとしている私。どうすればよいのだろうか。」

たとえ完全な祈りとは言えなくても、主

は私の願いを聞いてくださいました。友人がケベックから電話をしてきて、どうしているかと尋ねてくれたのです。努めて自分の気持ちを隠していたのですが、彼女は事情を察して私に教会へ行くように説得してきました。とうとう私は彼女に、もう信じていないので教会とはかかわりたくないと告げました。友人は私の言い訳を見抜いて、私には証があると言うのです。証をよみがえらせるだけで十分だと言うのです。私をとて愛していて、是非正しいと思うことをしてほしいと言いました。しばらく話していましたが、最後に彼女は日記を開いて書いてあることを読み返すように勧めました。そこで勧められるままに、その晩日記を開いて読みました。私の胸に伝わるものがありました。どうしても祈らなければと強く感じるのです。祈って読み進むうちに、聖霊からの安らぎと慰めを受けました。主は私が心から信じたいと望んでいたことも、行く手にたくさんの障害を抱えていたこともご存じだったのです。

翌日、両親の願いに逆らって教会へ行きました。私はひどく臆病になっていましたが、ワード部の姉妹たちが訪問者と見て、歓迎してくれました。眠れぬ夜と長い議論が何日も続きました。とうとう私はバプテスマを受けました。私が本当に必要としていた助けは日記を通して与えられました。私は自分にこう言いかけました。「感じる必要があるんだ。さもないと書けないのだから。」たとえ信じていなくても、主はそのときどき感じたことを書き記すように勧めておられるのです。私は日記によって救われました。それが主と私の交通の手段であり、主から来るものを信じなければならぬと思っています。



私は教会の勧告に心から感謝しています。日々の経験を記録するようという勧告に感謝しています。その重要性を証することができます。実際に日記を書き続けて、平安と力を恵まれました。私の進歩と成長は歴然としています。主が私の内なる細い声に耳を傾けてくださることからだけでも、

どれだけ私の人生に働きかけてくださっているかがわかります。私は教会が真実であることを知っています。たとえ疑いの心が起きても、すぐに立ち返らせて私に真理を再認識させてくれるよりどころが傍らにあるからです。

我が家の ホームティーチャー



□ハート・K・マッキントッシュ

ホームティーチャーは、割り当てられた家族に対して靈感を受けるという話をよく聞きます。我が家の数年前の経験には、実にその祝福がはっきりと表われているものと思います。

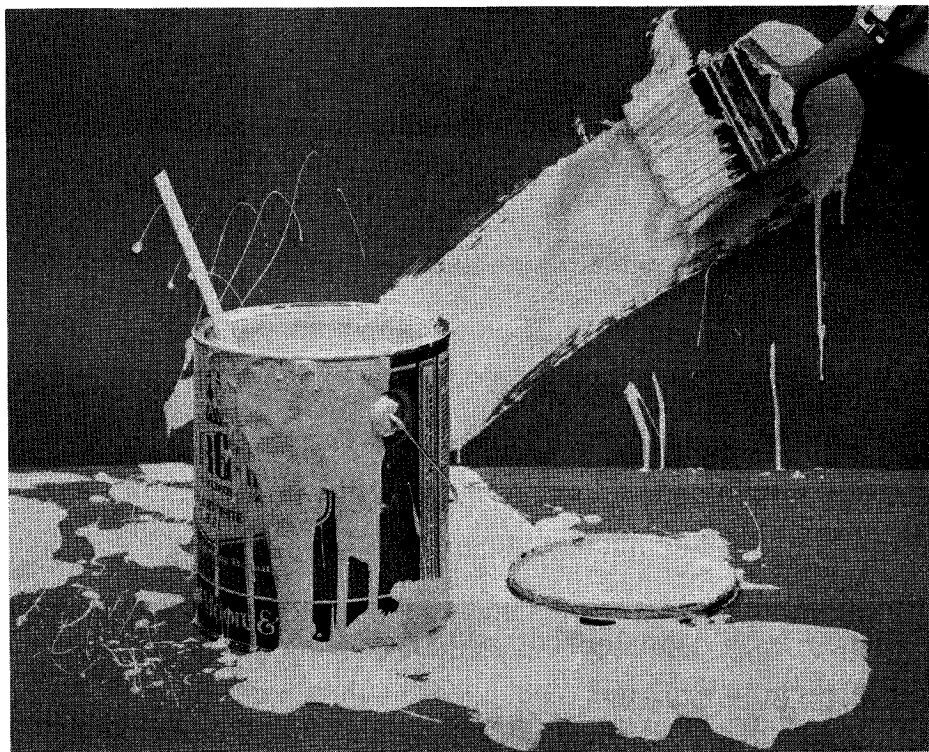
大学の学期が終わり、夏期のアルバイトで家のペンキ塗りをやっていました。夜はインスティテュートのクラスで教えていました。我が家はちょうどその頃、7人家族がゆったりと乗れる念願の大型車を買ったばかりでした。

ある晩私がインスティテュートへ行く準備をしていると、当時3歳と5歳の娘たちがふたりとも腕を真っ白にして家の中にかけて来ました。ふたりがそれまで何をしていたのか考えも及ばなかったので、小麦粉でもいたずらしたのだろうぐらいにしか思いませんでした。とっさに、腕の白い物がしたたり落ちているのに気がついた瞬間、何があったのか事情が飲み込みました。

使っていない油性の白いペンキ缶を車の中に置きっぱなしにしていたのです。ごていねいに、幅広のハケまで横に置いて。幼い娘たちは缶を開けて中を見ると、天井から床、座席まで車の内部をペンキだらけにしてくれたのです。

目の前のひどい光景に声もなく立ちつくしている私に、娘のひとりが笑顔で話しかけてきました。「ねえパパ、すてきな車でしょ。」私はなるべく心を落ち着けると、娘たちを抱えて風呂場へ行き、妻を呼んで子供たちを洗ってもらうことにしました。私の方は車の手入れをするはめになりました。

ちょうどそのとき電話のベルが鳴り、受話器を取った私は少しいらいらした口調で「もしもし」と言ったのです。受話器の向こうから聞こえてきた声はこう言いました。「マッキントッシュ兄弟ですか。お宅のホームティーチャーのワイルダ兄弟です。あなたとご家族がどうしていらっしゃるか



と読んで。」

「ワイルダ兄弟、うちの娘たちが何をしでかしたか想像もつかないでしょうね。」私はうめくように言葉をつぎました。「買ったばかりの車の中をペンキで塗りたくってくれたんですよ。しかも拭き取るのに必要なテレピン油がまるっきりないんです。」

そのときのホームティーチャーからの返事は、今でも私の耳に靈感あふれる言葉として残っています。「マッキントッシュ兄弟。信じられないでしょうが、30分程前にデパートを歩いていて、何か私に語りかけるのです。『テレピン油を買いなさい。』私は訳もわからずに買いました。まだ車の

中に置いてあるので、すぐにお宅へ行って拭くのを手伝いましょう。」

数分のうちに彼はやって来ました。20分もするとめもごとは片づいて、私はクラスの授業に間に合いました。

入口を通るとき、私は空を仰いで短い祈りを捧げました。「父よ、私の家族を心にかけて靈感を求めてくれるホームティーチャーに感謝します。」

*ロバート・K・マッキントッシュ：6児の父親、ユタ州センタービルのワード部に所属し、ステーキ部日曜学校会長を務めている

ジエドと川

とう油ランプのあかりが、ゆらゆらとゆれていました。ジエドのお母さんは、とう油がなくなってしまうはしないかと、心配そうにランプに自をやりました。戸だなのピンにはあと1回、ランプをいっぱいにするだけの油しかないのです。

ランプの火のゆれがおさまると、お母さんはまたのこっているものを調べはじめました。大きなさと



お話し：
テルマ・J・ハリソン

うの入れ物は空っぽで、トウモロコシのこなはもうありませんでした。それにたるの中にも、パン1こ分のこなだけ。お田さんは、たるのふたをもとにもどすと、長い深いためいきをつきました。

ジエドは、10さいになったばかりで、いつもならもうぐっすりとねむっているのですが、きょうはねむれませんでした。ジエドはどうしてお田さんがためいきをつくのか知っていました。だってきょうの午後、ジエドはさい後のニンジンとジャガイ

モをそこから出したのですから。ジエドはお田さんが、ランプのしんを下げ、あかりを消すのを見ていました。

ジエドはお田さんがベッドに入るのを待っていました。でも、お田さんはベッドに入ってはきませんでした。青い月の光がカーテンの下から部屋に入ってきて、お田さんがテーブルの下にかがんでいるのが見えました。お田さんは、ないていました。でも、大きな声ではありませんでした。お田さんは、お父さんに聞かれなくなかったのです。お田さんは、お父さんの前ではいつもニコニコして、おもしろいことを言ったり、お父さんをわらわせたりしていました。それに、「何とかなるわよ」と言っていました。

ジエドは、お田さんには大へんなことがたくさんあることを知っていましたが、お田さんがいないのを見るとかなしくなりました。お父さんは病気がひどくて、ベッドから起きられず、お医者さんにみてもらわなければなりませんでした。それ



に、冬^{ふゆ}の食物^{しょくぶつ}はもうありませんでした。少し^{すこ}前^{まへ}、うえたインディアンの家族^{かぞく}に、たくさん^{たくさん}のこなや、さとうや、ベーコンや、ジャガイモをあげたとき、お父^{ちち}さんはお母^{はは}さんに言いました。「心配^{しんぱい}しないでいいよ。1日^{いちにち}か2日^{ふたにち}かけて店^{みせ}まで行って、もう少し^{すこ}買って^かくるから。」ところが、それから少し^{すこ}してお父^{ちち}さんは病^{びょう}気^きになってしまいました。毎^{まい}日^{にち}「1日^{いちにち}か2日^{ふたにち}したらよくなるから、そうしたら買^かいに行くよ」と言^いっていましたが、病^{びょう}気^きはだんだんに悪^{わる}くなるようでした。

ジエドは、ふたりの弟^{にい}を起^{おこ}こさないように、そつとベツド^{ベット}を出^でてお母^{はは}

さんのそば^{そば}に行^いき、やさしくかたに手^てをおきました。ジエドは言^いいました。「お母^{はは}さん、なかないで。大^{だい}じょうぶだよ。何^{なに}とかできるよ。」

「ジエド！」お母^{はは}さんは小^こさな声^{こゑ}で言^いいました。「起^おきていたの。買^かい物^{もの}に行^いけたらいいんだけどねえ。川^{かわ}をわたるときお母^{はは}さんが手^てづなを持^もっているから、お前^{まへ}、馬^{うま}の頭^{あたま}を前^{まへ}に向^むけていられるかい。」

「うん、できる。」ジエドはゆうかんに答^{こた}えました。でも、本^{ほん}当^{とう}はこわかったのです。川^{かわ}があまり深^{ふか}くない筈^{はず}、お母^{はは}さんが手^てづなをとり、お父^{ちち}さんが馬^{うま}の頭^{あたま}を前^{まへ}に向^むけているときだつてこわかったのですから、こわ



くないはずがありません。川のはばは広く、水は深くて、安全にわたれるところはほんの何か所かしがありません。

お田さんは言いました。「お前はたよりになる子だね。買い物をして、1日でもどつてこなければ。あした、夜明け前に出発しよう。さあ、少しねむろうね」

お田さんは、赤ちゃんのレイチエルのふとんをそつとなおしてやり、それからベッドに入りました。ジエドもそつと部屋の中を歩いて、弟がねむっているベッドにもぐりこみました。

よく日は長くて大へんな日になることはわかっていましたが、ジエドはねむれませんでした。ジエドは、しぶきをあげ、うずをまいて流れる、川ぞこの流れのはやい川のことを考えていました。そして、向こう岸にわたるまで、お父さんがしっかりと馬の頭をおさえていなければならなかったことを思い出しました。それから、足にかかる水はどんなにつめたいだろうかと思いました。

ふと、ジエドは思いました。「どうしてぼくは神様に、助けてくださいって、おねがいしないんだろう。どうして、こわくないようにゆう気をくださいって、おいのりしないんだろう」

ジエドはまたあたたかいベッドから出て、つめたいゆかにひざまずきました。「天のお父様、どうぞぼくをしゆくふくしてください。川がこわくないように、助けてください。お父さんみたいに、馬の頭をちゃんとおさえていられるように、それから、ぼくとお田さんが安全に家にもどつてこられるように、助けてください。ぼくたちがるすのあいだ、お父さんと弟たちをおまもりください」ジエドは安らかな気持ちになって、またベッドにもどり、ねむりました。

お田さんがジエドを起こしたときは、まだまっ暗でした。ジエドはふるえながら着がえをし、お田さんと一しょに外へ出て馬をつなぎました。それから、歯をカチカチ鳴らしながら、また家に入りました。お田さんは、お父さんに「行ってきます」

のキスをしました。ジエドは足にまくクマの毛皮と、かたにかけけるキルト、そしてお昼に食べるパンとくだものを集めました。

川にさしかかったのは、まだ日が高くないうちでした。川の流れを見、ごうごうという音を聞いて、ジエドはまたこわくなりました。

お田さんは、やさしくジエドを見ました。お田さんには、ジエドにとって川をわたる仕事が大へんなことはわかっていたのですが、食物を手に入れるにはこうするよりほかに方ほうがなかったのです。「わたれるかい？」「もちろん。」ジエドは馬車からとびおりました。でも、ジエドが川の土手に立つと、とつぜん川はものすごい音をたてて流れだしたように思えました。ジエドのおねははやがねのように鳴り、ジエドはやつこのことで、馬の背中にもたがりました。

ジエドは思いました。「だめだ、とてもだめだ。」でも、くじけそうになったとき、きのうの夜おいのりしたときに感じた安らかな気持ちを思

い出しました。ジエドは馬の上でまたおいのりしました。「天のお父様、こわくないように助けてください。安全に川をわたれるように、助けてください。」

すると、こわい気持ちは消え、おねがドキドキするのもおさまりました。それに、川もたけりくるつたけものような音はたてなくなりました。馬が川に入ると、なんだかお父さんがそばにいて、助けて、みちびいて、ああしなさいこうしなさいと教えてくれているみたいでした。ときどき足に氷がかかりましたが、ちつともつめたくありませんでした。思ったより早く、馬車は向こう岸に着きました。

「よくやったね。」ジエドが馬車にもどつてくると、お田さんが言いました。お田さんは、ジエドの足にクマの毛皮をまき、かたにキルトをかけてくれました。「お父さんみたいにじょうずだったよ。」

まもなく、ジエドとお田さんは店に着きました。店の主人が出てきて言いました。「シェリダンさんじゃ



ありませんか。よくいらつしやいました。去年の秋からお会いしていませんでしたね。今は川の流れがはやくて矢へんだから、春の終わりごろでなければ会えないと愚っていましたよ。ところで、ご主人はどこですか」

お田さんがわけを話すと、店の主人はお医者さんにれんらくしてあげましょうと言いました。主人はジエドのかたをたたいて言いました。

「よくやったなあ、ジエド。10さいでこんなことのできる子は、あまりいないと愚うよ。」「わたしもそう愚いますよ」とお田さんも自をかがやかせながら答えました。「この子がいなかったら、どうしていたことか」

店の主人は言いました。「まあ、お入りください。入り用な物を見つくりましょう。病氣のご主人や小さなお子さんのところへ早くお帰りになりたいでしょう」

こな、さとう、マメ、ベーコン、
ほしたスモモ、トウモロコシのこな、
ジャガイモ、ニンジン、リンゴ、と
う油、お父さんの薬、ふくろにっぱ
いのキャンディーを馬車につみこ
と、ジエドとお母さんは家に向か
つて出発しました。帰る道々、ふたり
は「よかった、よかった」と話し合
いました。お父さんが、どんなによ
ろこぶでしょう。

まもなくまた川に来て、お母さん
は馬車を止めました。ジエドとお母
さんは、少しのあいだ川の向こうを
ながめました。川は、まるでおちを
当てられた馬のようないきおいで、

流れていました。

お母さんが何も言わないうちに、
ジエドは馬車をおりて、馬にまたが
りました。さむさで体がふるえて、
背すじがぞくぞくしました。でも、
こわいと思つたのは、ほんの少しの
あいだでした。さつき、ジエドとお
母さんは天のお父様の助けをかりて
川をわたりましたが、こんども同じ
ようにしてわたるのです。ジエドは
ふりかえってお母さんにほほえみか
け、大声で言いました。「さあ、行
くよ！」そして、馬をやさしくたた
くと、馬車を向こう岸へみちびいて
行きました。





コンビーフサンド

ハンバーガーようまたは
 ホットドッグようパン…………… 8つ
 コンビーフ…………… 1かん
 ピクルス…………… 50グラム
 うすきつたチーズ…………… しょうしょう
 ケチャップ…………… 1/2カップ
 ウスターソース…………… こさじ2はい

1. パンをはんぶん²にきってまんなかをくりぬく
2. ざいりょう²をまぜあわせてパンにつめる
3. ひとつずつホイイルでつつむ
4. たべるときにはオーブントースターでやく

コールスロー

キャベツのみじんぎり…………… 3カップ
 ハムのみじんぎり…………… おおさじ2はい
 マヨネーズまたは
 サラダドレッシング…………… 1/2カップ
 す…………… おおさじ1はい
 さとう…………… おおさじ1はい
 しお…………… こさじ1/2はい

1. キャベツとハムをまぜる
2. マヨネーズ、す、さとう、しおをまぜあわせる
3. れいぞうこ²でひやしてめしあがれ



むかしむかし、ナイトはせんそう
 に行くときよろいを着ました。それ
 から、^{かたな}刀とたてを^も持っていました。
 たてというのは、^{かたな}刀ややをふせぐた
 めのものです。^{あく}悪とたたかうとき、
 わたしたちは、ちょっとちがうよろ
 いを着ます。それは、^{かみ}神様のよろい
 とよばれています。(エペソ6：11-

17) そう、れいてきな^{つよ}強さとも^い言
 いますね。それを^き着ていると、わたし
 たちはゆうわくや^{わる}悪いことに^た立ち向
 かうことができます。れいてきな^{つよ}強
 さを^も持っていると、^{ほんとう}本当の^{へいあん}平安を知
 ることができ、^{かみ}神様のよろいを^き着て
 いるというもはんに^ななることができ
 ます。



な
 り
 ま
 し
 よ
 う

作り方

1. たてを、切りぬきます。たてAをたてBの^{うえ}に、^{みぎ}右はしをそろえてはります。
2. たてAの^{てんせん}点線のところを切り、1まいずつおりかえて、たてBが見えるようにします。たて
3. たてBのせいくを見つけてその^{ひと}人がどんなもはんをしめたか調べましょう。
4. よいもはんになるためには、どのように^{せいかつ}生活すればよいか、^{かん}考えましょう。

も
は
ん
に

たてB

かみさまのよろい
(れいてきなつよさ)

きよいおもい
ただしいげんそく
(シャデラクー
ダニエル1)

いのり
しょうじき
こうへい
(エノクー
モーセ6-7)

しんり
ふくいん
(パウロー
ローマ1-2)

ただしいみち
(ニーファイ
I ニーファイ11-12)



すくい

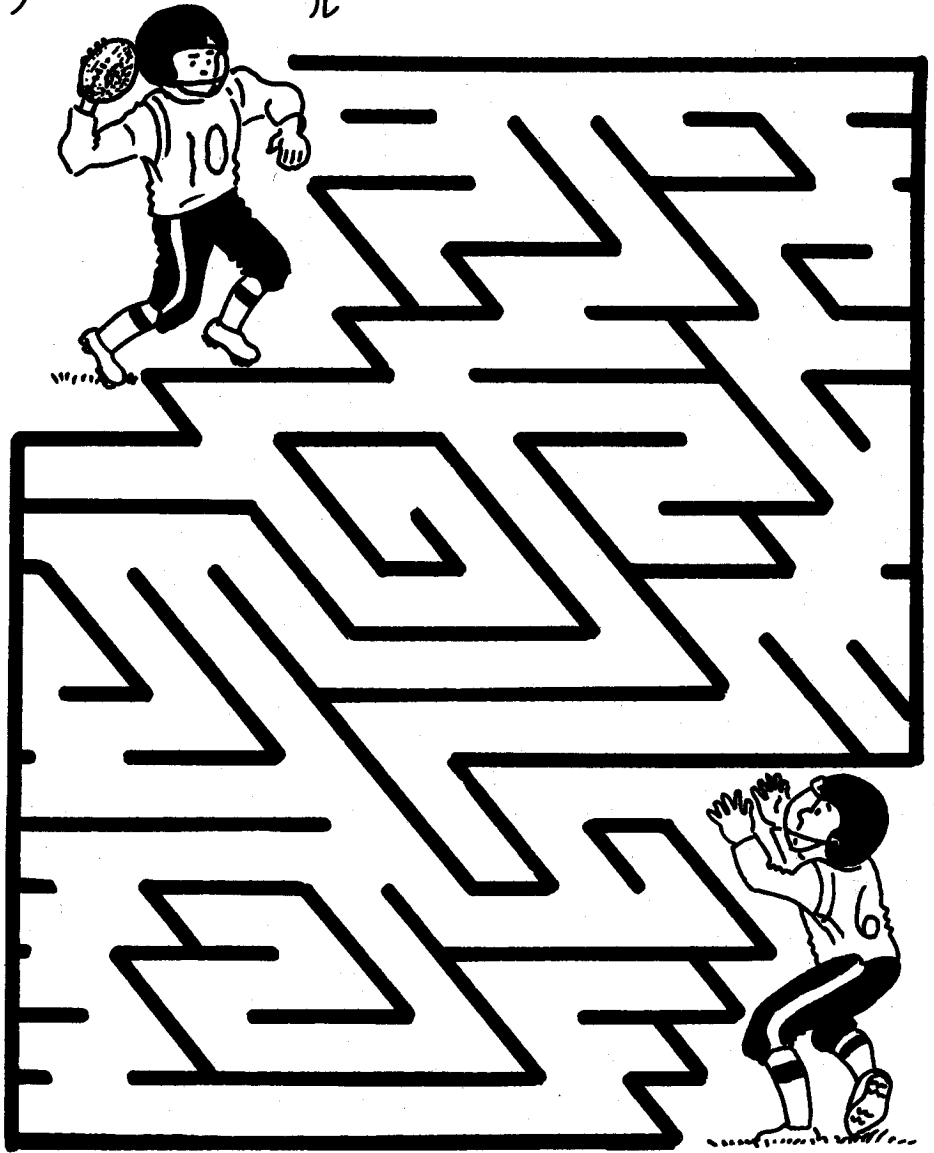
せいぎ

しんこう
かみさまに
たよること
(ダビデー
サムエル上17)

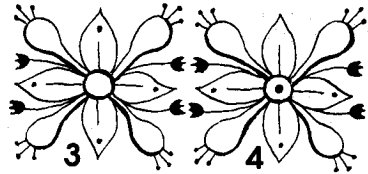
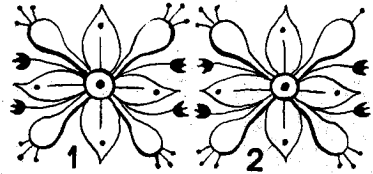
おもちゃばこ

フットボール・パズル

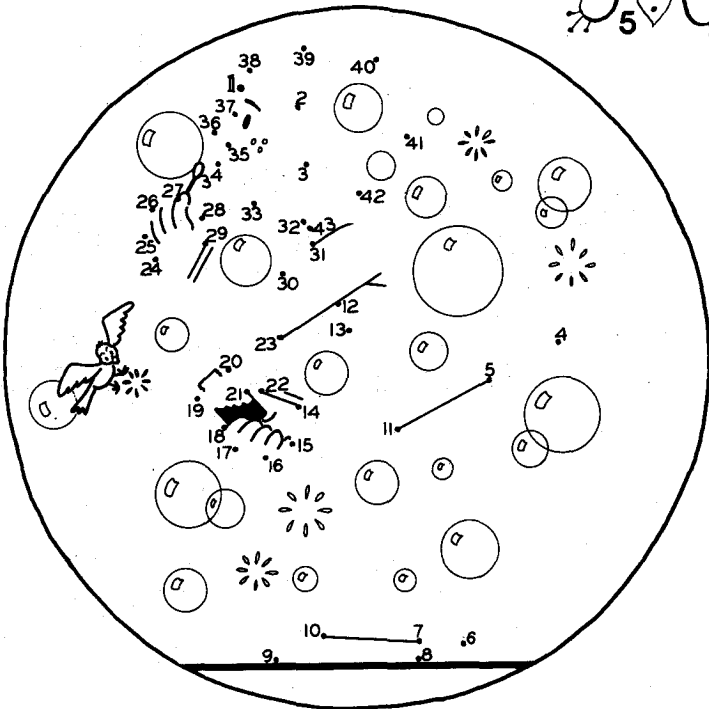
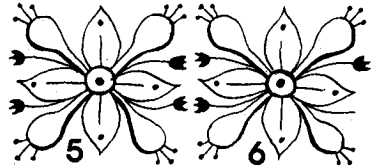
かべにぶつからずにボールを
わたすことができるかな？



●おなじもようがふたつあります。さがしてください。



●1からじゅんばんに、てんをむすんでみましょう。なにがてきるかな。





モルモン経に副題(「イエス・キリストについてのもうひとつの証」)が付されて新たに出版さる

19 82年10月の総大会で十二使徒定員会の聖典出版委員会のひとりであるボイド・K・パッカー長老は、末日の聖典の新たな編集に関し、今後モルモン経には「イエス・キリストについてのもうひとつの証」という副題が付加えられることを発表した。「聖徒の道」1983年1月号, pp. 3, 90-94参照

日本語版については、これまでのモルモン経の在庫の切れた今年度6月に、新たに上記の副題が付されて出版された。それに伴いモルモン経の扉のページの後に、3ページにわたる序文が加えられ、モルモン経が聖書と並び称せられ

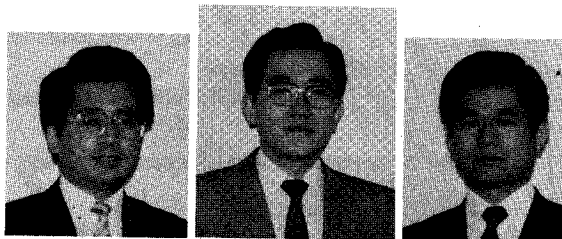
る聖典であり、永遠の完全な福音が載せてあることをより明確にしている。

十二使徒定員会会長のエズラ・タフト・ベンソン長老は、モルモン経に副題が付加えられる意義を次のように語っている。

「モルモン経に副題が付加えられることにより、この本の目的である『ユダヤ人と異邦人ともにイエスは永遠の神なるキリストにましまして、万国の民に現われたもうことを確信させること』が、これから先、モルモン経を手にするすべての人々に、ただちにわかるようになるでしょう。また、イエス・キリストについて人々に証する宣教師にとっても、大きな助けとなるに違いありません。」

東京西ステーキ部長会再組織される

新ステーキ部長に宮脇荘司兄弟



去る6月2, 3日に七十人第一定員会会員のアドニー・Y・小松長老管理のもとに東京西ステーキ部大会が開かれ、新たにステーキ部長会が組織された。これまでステーキ部長を務めた青柳弘一兄弟は先に仙台伝道部長に召されたために解任となり、以下の方が東京西ステーキ部の新役員に召された。

ステーキ部長／宮脇荘司 (写真中央)

第一副ステーキ部長／品川文弘 (写真左)

第二副ステーキ部長／吉野和洋 (写真右)

幹部書記／八木最一, 書記／北原実, 書記補／小川和則, 上野誠

高等評議員／松本潔, 市川源二, 堀口従道, 小侯孝, 吉田上, 林孝, 畠中耕三, 工藤駿一, 渡辺雅夫, 宇田川精一郎, 佐々木利実
ユニットの管理者：八王子ワード部監督 (塚田豊雄), 国立ワード部監督 (津村又三郎), 府

中ワード部監督(黒川二郎), 甲府ワード部監督(高橋哲郎), 多摩支部支部長(坂本正樹), 富士吉田支部支部長(渡辺喜信)

▶宮脇荘司ステーク部長◀1948年生まれ。岳子姉妹との間に4人の子供がいる。教会では今までに、支部長, 副伝道部長, 副ステーク部長, 高等評議員などの責任を歴任。仕事は経営コンサルタント。

ロサンゼルス オリンピックで 通訳として奉仕する 1,000人の帰還宣教師



海 外で伝道し、その国の言葉を修得した1,000人以上にのぼる帰還宣教師が、7月28日より16日間にわたって開催されるオリンピック夏の大会で、通訳者あるいは翻訳者としてボランティア活動を行なう予定である。これは教会南カリフォルニア広報評議会副委員長を務めるハワード・カードン兄弟が、ロサンゼルスオリンピック小委員会に働きかけて実現したものの。

オリンピック小委員会のビル・ウィッシャー氏は、ボランティアとして働く帰還宣教師についてこう語っている。「彼らはうわさ通りの能力を身につけているのはもちろんのこと、奉仕とは何かを理解しています。彼らは身をもって奉仕を実践しているのです。」

日本語、中国語、ポルトガル語、ドイツ語、オランダ語、スペイン語、スカンジナビア語、ロシア語を話す帰還宣教師たちの言語能力は、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)での特別なテストによって実証済みである。こうして選ばれた人々は、オリンピック競技場内

や案内所、空港、ホテル、オリンピック村などで通訳の仕事をすることになる。そのほかに英語を話さないオリンピック役員のもとで働く場合もある。

「オリンピック参加者とその家族は、期待に胸をふくらませてアメリカにやってくる。そして、ディズニーランドなどの催し物やアメリカ人の生活に興味を持つでしょう。それとともに、オリンピックの通訳者がなぜ自分たちの言語をそれほど上手に話すことができるのか、その理由を知りたいがると思います。これはまたとない機会ですよ。」カードン兄弟はそう語っている。(「チャーチニュース」5月20日付)

子供の日親子で 神殿参入 名古屋ステーク部

土 曜日に神殿を訪問すると、ロビーで若い兄弟姉妹がバプテスマの始まるのを待っている姿を見ます。それを見るたびに私たちはうらやましく感じていました。

神殿から350キロも離れた名古屋の中学生・



●神殿に参入した名古屋ステーク部の10人の青少年と7人の独身成人および川崎監督

高校生たちは、東京の青少年のように神殿を身近なものに感じる事ができません。私たちは彼らにも神殿の祝福を味わってもらいたいと言うと願っていました。

第2回青少年神殿参入は、5月5日に1年8カ月ぶりに実現し、中学1年生から高校1年生までの10人が参加しました。全員が初めての参入でした。

アロン神権回復の月であり、「子供の日」でもありましたので、彼らのお父さんたち6人にバプテスマの執行者や証人をしていただき、親子

と一緒に死者の贖いの業をする得がたい経験を分かち合いました。

若い人たちは、帰りのバスの中で、「また来たい」「とても霊的だった」「早くエンダウメントを受けたい」「いつも神殿に参入できるような生活をしたい」などの証をしてくれました。また、翌6日の各ワード部での断食集会でも感動的な証を聞かせてくれました。

次代の教会を担う若者たちは、すばらしい人たちです。(レポーター：名古屋ステーキ部若い男性会長・糟谷一郷)

全米チャンピオンBYU社交ダンスチームを 招いて行なわれた日米大学間の交流

ブリガム・ヤング大学 (BYU) 社交ダンスチーム (ボールルーム・ダンスカンパニー) が初来日し、文化服装学院 (東京都新宿区代々木) と日本体育大学 (東京都世田谷区深沢) で公演を行ない、日米大学間の交流を行なった。

BYU社交ダンスチームは、毎年1,000人以上のBYUの学生の中からオーディションによって選出された人々によってチームが生まれ、これまで創作ダンスやフォーメーションの部門

で全米はもちろん世界選手権で何度も優勝の栄誉を勝ち得ている。

今回の来日は1979年に日本体育大学のバレエボールチームがBYUを訪れたことを契機に両大学間でスポーツや文化交流が盛んに行なわれるようになり、その一環として行なわれたものである。また日体大が文化服装学院と交流

●(写真左)BYU社交ダンスチームによる公演 ●(写真右)公演後、相互の学生たちによるプレゼント交換など交流のひとつが持たれた



があったことから、両校が今回の公演の会場となった。

初来日した37名のBYU社交ダンスチームは台湾や香港、中国をダンス親善使節として歴訪し、日本がアジアで最後の訪問地となった。

末日聖徒の大学を代表する団員たちの表情は明るく、終始笑みをたたえて自信に満ちた演技を華やかに繰り返し続けた。優雅なワルツに始まり、軽快なチャチャチャやチャールストン、ラテンミュージックからポップスまでをメドレーでつづり、集った人々からさかんな拍手を受けていた。休む間もなく一曲ごとに目まぐるしく衣装を替え、会場一杯に流れる音楽に合わせて舞った2時間にわたる公演は、集った人々を魅了し、時のたつのを忘れさせた。

公演後、相互の学生たちによって準備されたBYUのバッジやTシャツなどのプレゼント交換が行なわれ、記念写真を撮るなどして交流を深めた。

BYU留学中に体験した 社交ダンスチームとの 思い出

仙台ステーキ部郡山支部
辻 恵子

BYUボールルーム・ダンスカンパニーとの再会は、留学していた4年間の私のダンス生活を鮮やかによみがえらせてくれました。私もあのチームの中で、世界各地を飛び回っていたのかと思うと、夢のようです。文化服装学院の大ホールで行なわれた2時間のショーの間、興奮と喜びで胸が一杯でした。

団員のほとんどは、ダンス以外の専攻（法律、



●ユタ州庁のロビーでユースシンフォニーの演奏に合わせてワルツを踊る辻恵子姉妹

エンジニア、教育、ビジネス)を学んでいるため、多いときで1日に5、6時間の練習をすることは、大きな犠牲を伴いました。また海外公演のときは飛行機代を自分で支払うため、夜中に掃除の仕事をしたり、アルバイトをする団員も少なくありませんでした。それでもダンスを通して得た喜び、経験、そして友情は何ものにも代えがたいものでした。

3年前イギリスで開催された世界選手権大会での経験は、今でも私にとって宝のひとつとなって心に残っています。その日のために毎日汗と涙、すり傷を作って練習したことは、フォーメーションの部門の、モダンダンス、ラテンアメリカンダンスの両方で、世界一のタイトルを獲得したことで報われました。

ダンスの世界の流行に染まらずあくまでも教

会の標準を保ち、主のみむねのままに挑戦した私たち。大会の前に大きな試練にも直面しました。私の膝が曲がらなくなり、ドクターストップがかかり心配しましたが、神権者の癒しの儀式により完治しました。ほかにもチームの主な団員ふたりが公演旅行の前に足を折ったり、大会の直前に大金が紛失したりで、私たちは最後の最後まで主に祈る気持ちで競技に出場しました。会場の片隅で小さな輪になっての祈り会には、確かに主のみたまがありました。一人一人がこのダンスを通して、伝道しているという使

命を認識し、証を得ました。

帰国して早3年になろうとしている今、主人と共に日本にも良きダンスを広めようと燃えています。若い人々が持てる才能を思う存分発揮できる機会や場を得て楽しく福音に添った生活ができればと願い、昨年4月に仙台ステーキ部内にダンスチームを結成しました。また機会を見つけては数々のダンスパーティーでデモンストレーションを行なうなどしてきました。楽しいダンスの輪をさらに大きく広めていけたらと願っています。(つじ・えいこ 1956年生まれ)

私のパプテスマ

「涙が止まらず顔はぐしゃぐしゃになりました」

東京ステーキ部吉祥寺ワード部
山口 こそ恵(高2)

▶ 前列右端が山口こそ恵姉妹



私が神の存在や教会について興味を覚えたのは、12歳の頃でした。いくつかの教会に行きましたが、どの教会の話聞いても、洗礼というものを受ける気にはなれませんでした。

それから3年が過ぎた去年の夏、ふたりの姉妹宣教師と知り合い、この教会のことを知りました。宣教師の名は、永島姉妹とアン姉妹です。彼女たちは品があって、とても優しい方々でした。しかし残念なことに、学校の活動で忙しく、福音を教わる機会があまり持てずにいました。そのうちに宣教師も入れ替わり、永島姉妹の同僚に新しくアイダ姉妹が来てくださるようになった頃から、福音を学べる時間が持てるようになりました。また、教会で宣教師が教えてい

る英会話にも行くようになり、そのとき初めて教会の内部を見ることができました。「なんて設備の良い教会なんだろう。」そう思いました。

12月に入って、悲しいことに永島姉妹が帰ってしまわれました。長い間、レッスンをしていたので、さみしく思いましたが、アイダ姉妹がいてくれました。永島姉妹に代わって、とても陽気なジェイコブス姉妹が来てくださいました。ふたりが私の家に来ると、とてもにぎやかで楽しいのです。

ある日、教会の英会話が終わった後で大勢の人と一緒に、「アメリカにおけるキリスト」と題するスライドを見ました。そのとき私が「パプテスマ、受けないなあ」と言ったのがきっかけ

□-カイル-①

りや、戒め、面接のことについて話し合いました。決定した日は1月29日。

28日には面接をしました。私はすごく緊張していた。28日には面接をしたことを聞かれて、答えていて、「レッスンで学んだことを聞かれて、答えられるなかつたらどうしよう。ちゃんと話せるかなあ。なにを話せばいいのだろう。」などと、次々に不安が飛び出してきてきたのです。今では面接のときに話したことのくわすかしが覚えられません。でも、話をしてくださった監督さんにも長老も、とても霊的で、寛大な態度で私に接してくれました。とても感謝しています。

早速、私は父にこう尋ねました。

「私の行っている教会で、たくさんのお金を学びたいし、神様を信じているの……。だから、バプティズムを受けてもいいですか？」

「自分でよく考えてみなさい。それは教会に友達が増えて、楽しいからではないのか？」

「友達が増えたのは事実だけど、あの教会は真実で、神様は生きていらっしゃるのよ。だめですか？」

父はムツとした顔をして口を閉じてしまいました。私はがっかりしました。どうしたらいいのかわからず、宣教師や教会員の方々に相談をしました。父はよく折って！ そうすれば平気よ。お父さん様は「いいですよ」と言ってくれるわよ。頑張ってください」と教えてくれました。

私は特に熱心に折り、神様によく頼みました。そしてもう一度、父に尋ねると、「そんなに言うならいだろう。でも、ほかの事をおろそかにしてはいけないぞ。約束できるならいだろう」と言ってくれました。

このとき私は、「神様に祈って良かった。やはり神様は生きていらっしゃる。本当だったんだ。これもみな、宣教師や教会員のおかげだ」と強く感じました。うれしくて、すぐにみんなに知らせました。宣教師と、バプティズムを受け取る日取

●NHK連続テレビ小説「鳩子の海」でデビューした頃の山口(斉藤)ごす恵姉妹(6歳)



とう」だけでした。

私の足は、たぶん宙に浮いていたでしょう。按手礼のときも、神様を身近に感じることができました。祈りの一つ一つの言葉が地球を覆う大気のように、私を包みこんでくれました。私はこの記念すべき日を私の心がある限り忘れないでしょう。

私が改宗した後、反対していた父も、私が早朝6時からの「モルモン経」セミナーに通っていると知ったとき、「がんばりなさい」と励ましてくれました。父の教会に対する見方が変わってきたように思えます。宗教にはまったく関心がなかったのに、キリスト教についての本を買って読んだり、街頭で伝道しているのはどこの教会かを知ろうとしている父の姿を今まで考えてもみたことがなかったので、とてもうれしく思いました。一方、母の方は、私と一緒にレッスンを受けたこともあって、「早くバプテスマを受けたいわ。でも、もう少し勉強して、年を取ってからがいいわ」と、まだ決心がつかないようです。

バプテスマを受けて私は一步一步神様に近づいているような気がします。あと何万歩、何億歩進めば、神様のもとへ行けるのかわかりませんが、私はこれからも、教会員の模範を見習って、福音を学び続けていきたいと思っています。どんな誘惑にも負けないよう「克己」という言葉を胸に刻んで、いつも神様を身近に感じて生活できるように一生懸命頑張ります。(やまぐち・こずえ 芸名＝斉藤こず恵、1967年9月30日、東京・武蔵野市生まれ。1971年、劇団若草入団。1973年、NHK連続テレビ小説「鳩子の海」でデビュー。NHK大河ドラマ「草燃える」、「花は花嫁」〔日本テレビ〕、「ギターを弾こう」〔NHK教育テレビ〕などに出演。現在、藤村女子高等学校2年)

アロハ
ALOHA
の愛



ハワイホノルル伝道部専任宣教師

久保 正明

ハワイ諸島は、常夏の国として知られている太平洋に浮かぶ小島群島です。ここハワイの地においても、主のみ業は確実に進められています。イエスがキリストであり、全人類の救い主、贖い主であるという、人生において最も重要なメッセージを携えて、ハワイホノルル伝道部約180人の宣教師はカウアイ島、オアフ島、モロカイ島、マウイ島、ラナイ島、ハワイ島という6つの島々で毎日力強く伝道しています。

ハワイと言えば、世界の観光地として有名な所のひとつで、全世界から毎年多くの人々が休暇に訪れます。1959年にハワイ諸島がアメリカ合衆国最後の州として属して以来、アメリカ本土を含め、アジア、ヨーロッパからいろいろな人種の人々が移住しています。ここでは世界各国から召された宣教師が母国語で福音を宣べ伝えており、教義と聖約90章11節の「あらゆる人人は己が国語と己が言葉にて完全なる福音を聞かん」という予言が確かに成就されているのを知ることができます。主は、再臨が近づくときレーマン人は正しく尊敬される民になると言われました。(教義と聖約49：24参照)この南太平洋に住むレーマン人は、真実の福音によって家族が強められています。

備えられていたのか電電公社の試験に通ったのです。

思いもかけぬ喜びとうれしさの中、伝道に對する思いは「そのうちに」と遠く離れていきそうでした。

就職後も言葉のうちには伝道と言いながら、その思いを断ち切ろうとしていたのかもしれませんが。それは正しい目標を失った船のようなものです。教会には毎週集っていながらずいぶん罪のうちに生活し、天父に対して罪を犯しました。

しかしながら仕事上は公社機関の中に大学部という教育機関があり、大学教育を受けたいとの望みから試験に挑戦し、合格しました。その知らせを受けたときは、マンネリ化していた職場に一すじの光を見たかのようにでした。将来本社に行けるかもしれない。そんな望みを抱きつつ、大学部入学式に参列しました。足取りは軽く、すべてが新鮮に感じられました。入学後は多忙な毎日が続き、あっという間に日が過ぎていきました。

それでも伝道のことを考えるたびに焦りを感じていました。心の中では「伝道に出られるだろうか。出られるさ。ではいつ？卒業後。いや将来はどうする」と非常に葛藤があったのです。大学では学祭の役員として働き、教会では長老定員会の会長、ボーイスカウトの隊長に任命されていました。自分を忙しくするうちに伝道に出ることを打ち消そうとする気持ちがあったように思います。

大学での生活を送るうちに友人たちは続々と結婚をしていきます。自分は一体何をしているのだろう。果たして自分の本当の目標は何なのかと悩みました。そして伝道に出られないのなら結婚することが主のみこころにかなうのではないだろうかと思い、結婚を真剣に考えました。

そして自分をどうすることもできない状況へ追いやっていったとき、それに反して伝道に對する思いが大きくなっていくのです。

そのときに感じた苦しみはどれほどだったでしょう。心が締めつけられるように痛いのです。それは「主がその驚嘆すべき大御業を私に示したもうときに現われる恩恵おんめぐみが大きいものにも関わらず、私は心の中で叫ぶのである。『ああ、私は不幸な人間である』と。まことに、私はわが肉体のために心に憂いがあり、自分の罪悪のために私の心は悲しむ。私は非常にたやすく迫ってくる誘惑と罪悪のために取り巻かれている。故に私が喜ぼうとすると、自分の罪のために私の心は苦しみにうめく。さりながら、私は今までに誰を頼みにしているかを知っている」(II ニーフай 4 : 17-19) と語ったニーフайの言葉の通りでした。

断食と祈りに目覚め、祈れば祈るほどに強く「伝道に出なさい」と心に迫ってくるのです。そんなときにふと親しい方より手紙をもらいました。私の全身全霊が奮い立ち、悔い改めの気持ちを感じたときに、信仰の友こそまさに本当の友であることを実感しました。世の友にはあり得ない、主の強さを感じたのです。

日を置いては断食と祈りを続けました。そして大学の試験の最終日、退社することを決心しました。つまり伝道に出ることを決心したのです。そのときの平安は何ものにも勝っていました。就職したときよりも、大学に来たときよりも、大きな安堵の気持ちがすべての黒雲を拭い去ってくれました。決心がついた後は何の不安もありません。

会社には心からの感謝とイエス・キリストへの証をまとめて退職論文としました。退職の日を1カ月後に予定して上司に相談したつもりが翌々日には辞職承認という辞令がおりてしまう

といった様々なハプニングがありました。決心した後は何が起ころうとも心に動揺はありませんでした。

私の伝道はひとりの伝道ではないように思っています。助けてくださった一人一人の力によって可能になったからです。しかし心から感謝を捧げたいのは天父です。なぜなら「わが神は私が荒野で艱難をした時に……私を守りたもうた。わが神は私の肉体が燃えんばかりに、私の中にその愛を満たし……わが神は昼は私の嘆願を聞きたまひ、夜は示現を以て私に智慧を授けたもうた」からです。「目醒めよ、わが心よ、もはや罪のために溺れるな。喜べ、わが心よ、これからはもはやわが身と霊の敵を近づけるな」(II ニーファイ 4 : 20-23, 28)

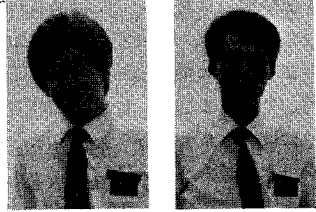
真理を知っていることは大切です。しかし真理を愛して真理に従って生きることがもっと大切です。インスティテュートの初年度に学んだ中に「真の宗教は犠牲を求める」とありました。それ以来忘れられない言葉です。

毎日の伝道で、天父が生きていらっしゃる、イエス・キリスト様が私たちの罪を贖って命を与えてくださったことを自分の実感として証しています。

ここヒロ市は第2の任地で7カ月目に入りました。伝道部長の許可を得て日本語学校を開きました。持てる才能をすべて伝道に捧げるつもりです。同僚たちを通して多くのことを学ぶことができますし、祈りを通して確信を得ることができます。

キンボール大管長が言われたように、若人がすべて伝道に出る決心ができたならどれほどすばらしいことでしょう。イエス・キリストの福音こそが人々に永遠の生命をもたらすものであることを証いたします。(はやせ・こういち 東京西ステーキ部府中ワード部出身)

「あらゆる人々は己が 国語と己が言葉にて 完全なる福音を聞かん」



ハワイホノルル伝道部専任宣教師
春田誠治(左) ● 平田浩二(右)

ハワイの地に召され、早10カ月が過ぎ去ろうとしています。海外での伝道を通じて英語や文化を学びながら多くの貴重な経験や証を得る機会が与えられたことを感謝しています。

ハワイホノルル伝道部で宣教師として働くようにとの召しを受けたときは、言葉・文化の違いなど多くの不安がありました。しかし一方で主の約束もあります。「私は主が命じたもうことを行って行う。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」(I ニーファイ 3 : 7)「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受くぜ。」(教義と聖約 82 : 10)

ユタ州プロボの宣教師訓練センターに行くために、サンフランシスコ空港で飛行機を乗り換えようとしたときのことで。ビザや入国期間などの問題で入国できないというハプニングが起ころい、私たちはあわてるばかりでした。何と

説明してよいのかわからず、私たちの乗らなければならぬソルトレーク行きの飛行機の出発まであと30分と迫っていたからです。しかもサンフランシスコからソルトレーク行きの飛行機は1日1便しかないと言われていました。祈るより方法がありませんでした。よく祈ってから「私たちはモルモン教会の宣教師として派遣されてきました」と言うと、不思議なことに入国を許可してくれました。しかしこれで安心というわけにはいきませんでした。なぜならソルトレーク行きの便の出発時間は、とっくに過ぎていたからです。

国際線から国内線へのゲートに行くバスの中は、ほとんどあきらめていました。しかしゲートに着き、ふと目をやると、出発しているはずの飛行機がまだそこに止まっているのです。信じられないような気持ちで一目散に飛行機目指して走りました。結局私たちが飛行機に乗れたのは、出発時間から45分後のことでした。この経験は単なる偶然ではなく私たちは確かに主の導きであったと感じています。

教義と聖約第90章11節に「あらゆる人々は己が国語と己が言葉にて完全なる福音を聞かん」とあるように、私たちはハワイにおいて英語の話せない多くの日本人の方々と福音を分かち合う機会があることを感謝しています。メンバー・ティーチングプログラム（教会員の福音に対する知識向上を目的としたプログラム）によって不活発な日本人の教会員を助けたり、短期間ハワイに滞在している日本人や留学生にも福音を伝える機会に恵まれています。

ある日本人の奥さんは、何度かアメリカ人宣教師の訪問を受けながら英語がわからないという理由で断っていたそうですが、私たちが訪問したことで福音やこの教会のプログラムに興味を示されました。

日本人の教会員の方々は、各集会やテキストが英語という福音に対する知識のハンディにも負けず、強い証と信仰で活発に教会の責任を果たされています。

これらの経験を通して、神様が人類一人一人を愛されていることや神様の救いの計画の大きさがよく感じられるようになりました。伝道は素晴らしい経験です。私たちが犠牲を払い、また希望を持って伝道するときに信仰や証は強められ、私たちにとって最も有意義な経験となるでしょう。（はるた・せいじ／ひらた・こうじ 共に1961年生まれ、山口地方部下関支部出身）

試しを祝福に

—「最後にはみんな泣いていました」—



福岡ステークス部二日市支部
穂坂 真理子(高2)

季節は3月で、私の通っている高校でもクラス替えがあります。私のクラスの女子は、今の高校生では珍しいくらい団結力があり、2年生になるとバラバラになってしまうので1年生のフィナーレとして何かやりたいと考えていました。

そこで私は3月27、28の両日に開催される福岡ステークス部若い男性・若い女性合同のスプリ

ング・コンファレンスへの参加を提案してみたのです。みんなに手紙を通して伝えたところ、全員が参加する、と言ってくれました。私の高校では、春休みの午前中は補習授業があるので、クラスのみんなには、コンファレンス1日目のソフトボール大会とオン・ステージに参加してもらうことになりました。

そこでオン・ステージの出し物をみんなで話し合った結果、合唱が一番いいということで、全部で18曲もの歌をメドレー形式で歌うことにし、2月の終わり頃から毎日休み時間を利用して練習しました。クラスのある男子からは、「もう歌を覚えてしまったからほかの歌を歌ってくれ」と言われたほどです。

コンファレンスを約1週間後に控えて、合唱も仕上げの段階までできていたとき、私たちのこの計画が学校に知れてしまいました。生活指導の先生に、「それは、学校がある特定の教会の宗教活動を行なうことになるから、絶対に出はいけない」と厳しく言われたのです。

私は思いもよらぬことを言われてあ然としました。今まで、みんながどんどん新しい歌を覚え、熱心に練習する姿をいつも主に感謝してきました。そして、みんなで力を合わせ、ひとつのことを成し遂げるのは、お金をかけてお別れ会などをするよりも尊いものだと考えていました。「一人一人が私的な気持ちでコンファレンスに参加する、ということではいけないのですか。」担任の先生がこう生活指導の先生に言うてくださったのですが、「高校のひとつの団体として出るのだから、公立高校であるうちの学校では許可できない」と参加許可はおりませんでした。

担任の先生が、とりあえずそちらの責任者と話してみようと言われたので、企画委員長の志喜兄弟に電話で学校の意向を伝えていただきま

した。

こういうわけで、クラスの参加が危うくなったことを委員会の人たちにも、クラスのみんなにも話しておきました。

「人事を尽くして天命を待つ。」矢野兄弟のこの励ましの言葉を頭に刻み、なぜクラスでの参加がいけないことなのか、はっきりとつかめないうままにも、とにかく参加できるようにと祈りました。

志喜兄弟から教頭先生の方へ、コンファレンスの主旨などをよく話していただいたのですが、一向に許可はおりません。

次の日、担任の先生と話し合いました。「お前たちの純粋な気持ちは本当に良くわかる。しかし、主催者が教会という点に問題があるみたいだ。せっかく盛りあがっていたお前たちの気持ちを踏みにじるようで申し訳ないが……。」

私たちのために何度も生活指導の先生にかけあってくださった先生は、すまなさそうにこうおっしゃいました。学校の意志と私たちの意志は、平行線が続くばかりです。

その日は補習がなく、クラスのみんなは練習のため、学校へ来ていました。私はすべてに絶望的になってしまい、「こんなふうになるなら、もうコンファレンスやめたい」と、いつも練習のときに助けてくれる友達の前で言いました。「真理子がしぼんだらみんなしぼむよ。がんばらな。」

いくら励まされても気持ちが落ち着きません。これからどうすればいいかまったく道が見えないのです。私はとっさに実行委員長の石井兄弟に電話をかけました。「参加できない、もうどうしたらいいかわからない。」私の、感情だけが先走った言葉でした。

「とにかく祈ってください。自分の弱さも強さもすべての思いを出して祈ってください。」こ

れが兄弟の返事でした。心の動揺の大きさに、祈ることも忘れてしまっていた自分を知らされて、その場で泣くだけ泣いてから、だれもない教室で正座し、誠心誠意祈りました。祈っている間に友達から練習に来ているみんなへ、先生から言われたすべてのことを伝えてもらいました。

長い祈りの後、どうやら心が落ち着いて、音楽室へ行きました。そこではみんなが歌っていました。一生懸命歌っていました。どうしてこの真剣な思いが壊されなくてはならないのか、私は憤りを感じました。

みんなが、先生の所へ交渉しに行く、と言ってくれたので、明日、教頭先生の所へ行き、歌も聞いてもらおうと提案し、また練習を再開しました。

でもその必要はありませんでした。次の日、補習が終わって生活指導の先生の方から私たちへ話があったのです。その内容は大体このようなものでした。

「日本には教育基本法という法律があり、これによってしか教育はなされないのである。君たちが今、やろうとしていることはこの中の第九条二項『国及び地方公共団体が設置する学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない』という法律に違反しているわけだ。君たちがみんなその教会員であ

るならば問題はない。だが違うだろう。もしも、このことを知ったうえでなお参加しようとするならば、学校は君たちを処分する。」

1時間にもわたる長い話の結果、参加してはならないと言われたのです。私たちは本当に私的な気持ちで参加するのであって、学校を代表するわけではない、高校生である前に、ひとりの人間として私たちを見てほしい、といくら言ってもだめなのです。

私がこの学校に入学していなければ、クラスの人々に出会わなかったでしょうし、コンファレンスに誘うこともなかったでしょう。これは確かな事実です。裏を返して言えば、この学校の生徒であるからこそみんなに出会えて、コンファレンスに誘うことができたのです。最後にはみんな泣いていました。

私のコンファレンスの紹介の仕方が正しくなかったかもしれません。合唱のいろいろな打ち合わせで、授業中に手紙を回したりもしました。ただ教会へ行っただけと言っても、周りから見ると特定の宗教活動をしているとしか見えないのかもしれませんが。学校を代表して参加するわけではないと言っても、クラスの女子全員ではどうやっても団体としか見えないのかもしれませんが。学校はそれを恐れていたのでしょう。

教育基本法の中に、こんな法律があるなんて知りませんでした。私が甘かったのです。社会と宗教とのむずかしい関係が、少しだけ見えてきたような気がしました。だれのせいでも、だれが悪いわけでもないのです。それだから、気持ちをどこにやってよいかわからず、余計にくやくてたまらないのです。

先生の話聞いた後、女子だけで話し合いが持たれました。一人一人の気持ちを聞いたところ、心の底ではみんな参加したい気持ちを持つ



ていました。それでも一国民として法律は守らなければなりません。私たちはこれ以上何を言っても学校の姿勢は変わらないと悟って、コンファレンスへの参加を断念することになりました。文章上から言うと、たったこれだけのことですが、言葉にはできないほどつらい断念だったのです。

帰ってから私は祈りました。この貴重な体験を得られたことに感謝したい気持ちで一杯でした。法律を詳しく教えてくださった生活指導の先生、最後まで応援してくださった担任の先生、そしてこの試しを与えてくださった神様にとっても感謝しました。

コンファレンス当日、私はこの日のために用

意した曲を、同じクラスで求道者である^{かばたに}榉姉妹とふたりだけで歌いました。無伴奏ではありましたが、18人の分、精一杯声を出して歌いました。終わった後、中津の姉妹たちから、私たちの後ろに光が見えた、と言われました。そこにはきつと、18人の光があり、神様の温かな愛が、私たちを包んでくださっていたのだと思います。

神様は確かに生きておられ、私たち一人一人を成長させようと助けの手を伸ばしてくださっています。この貴重な経験を忘れず、これからも数々の試しを受けるでしょうが、それらを祝福に変えて、神様の子供として光輝いていきたいと思います。(ほさか・まりこ)

神のみ業に進みて

JMTC第60期生42名

●五月に召された日本人宣教師四二名。JMTC設立以来最多人数となった。



完成した米子ワード部 教会堂 一種がまかれて11年

3月15日(1984年)、ついに待ちに待った米子ワード部の改造工事が完成し、正式に引き渡しを受けました。もともと電機会社の倉庫だったもので、とても大きな建物です。

教会堂は、バプテスマを受けて清くなった人のように立派に生まれ変わり、美しく堂々として主の家にふさわしくなりました。建物の中央に神聖な礼拝堂があり、バプテスマフォントや多目的ホール、多くの教室があります。献堂式によって主に捧げられる日を、私たちは楽しみに待っています。

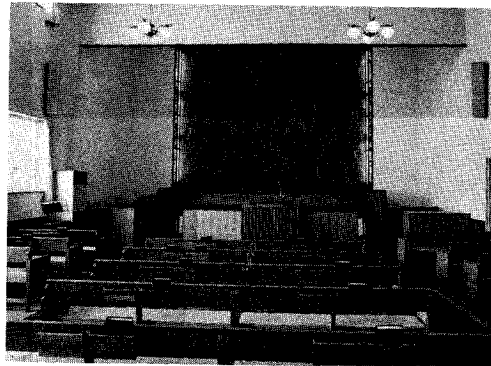
米子は人口13万人の山陰の小さな市で、大山と温泉で有名です。米子ワード部の起こりは、1973年(約11年前)に初めてふたりの宣教師が訪れたことに始まり、10年後の1983年3月20日、岡山ステーク部の米子ワード部になりました。現在、聖餐会には、60-70名の熱心な教会員が集っており、礼拝堂に人があふれるようにしようと私たちは燃えています。

米子ワード部は、子供が多く、とても明るいワード部です。永田万恵姉妹は間もなく8人目

の子供の誕生を迎えます。松本正子姉妹は6人の子供に恵まれています。船井ひろ子姉妹に3人目が先日生まれました。そのほかの子供を全部合わせると26人にもなり、毎週教会に集っています。初等協会の会長である久米郁子姉妹が会長会や教師と共に将来の指導者を熱心に育てています。米子の地がシオンのステーク部になるのも遠くないでしょう。

「主、その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし、精神を一にし、義に住みたればなり」(モーセ7:18)と言われたエノクの民のようになるため、会員一同は心と精神を一致させ、義に住むよう努力しています。(岡山ステーク部 米子ワード部監督・永田昭)

●米子ワード部礼拝堂



編集室から

●モルモンフォーラム「私はどうしています」の月号掲載予定でありました「家庭で読書意欲を養うには」は9月号に変更いたします。

●ローカルページに皆様からの投稿をお待

ちしています。各地の身近な話題や行事、日々の信仰生活から得ている証など、お便りをお寄せください。10月号掲載分の締切は8月9日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)を記入してください。

●あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室。☎03-440-2351(代)

訂正

7月号143ページ左段上から3行目「ソルトレーク神殿の評議員」は「ソルトレーク神殿の副神殿長」に、また折り込み教会幹部の一覧表の中の「フィリップ・T・ソントック」は「フィリップ・T・ソントック」に訂正します。

岡山ステーキ部米子ワード部教会堂

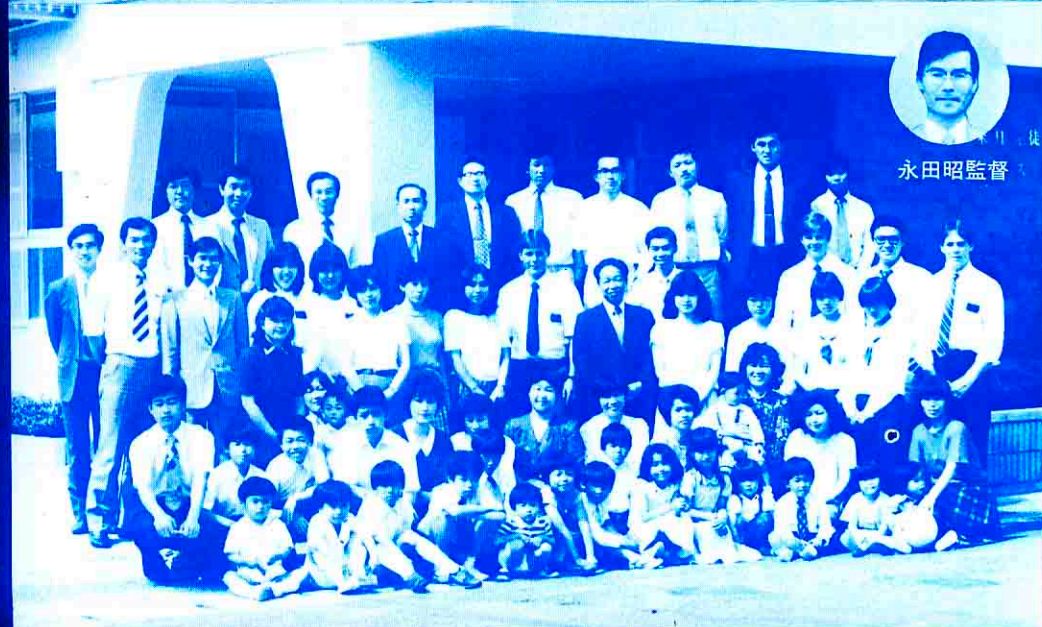
1984年3月15日完成

鳥取県米子市東福原522-2 TEL 0859-34-3475

敷地面積：1016.52㎡

建築面積：580.92㎡

延床面積：753.79㎡



永田昭監督

「ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、『先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか。』……イエスは彼に言われた、『もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい。』この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たくさんのお金を持っていたからである。』（マタイ19：16、21-22）

